

農工通信

*The Graduates' Association of
Tokyo University of Agriculture and Technology*

No. 106 / 2025.9



front



side



back



一般社団法人

東京農工大学同窓会

<https://tuat-dousoukai.org/>

TUAT Tokyo University of
Agriculture and
Technology

会長就任挨拶／会長退任挨拶	1
理事長就任の挨拶／理事長退任の挨拶	2
一般社団法人東京農工大学同窓会第7回定時総会	3
同窓会役員等体制と部会長・支部長及び連絡員表	7
代議員一覧	8
令和6年度同窓会学生援助事業報告	9
部会・支部・同好会・クラス会だより	10
叙勲・褒章受章にあたり	22
亀山 章、氣多 正、立和田裕一	
退職にあたり	24
打出 毅、金勝 一樹、渋谷 淳、千年 篤、桑原 利彦、 夏 恒、山下 善之、養王田正文	
同窓生からの寄稿文	
女子蚕糸業教育一学理に学ぶ	27
わがクラスの人々	27
農工大まで遡った研究・教育人生	27
クロノス（農耕の神）の導き	28
自分史をまとめ始めました	28
一生を決めたアルバイト	29
ななじゅう会	29
農工大ヨット部復活のプロジェクトX	30
森林・林業と深く関わって～森林の造林・整備そして管理へ	30
楽しく生きよう！	31
母校ゆかりのハスを育てる	31
岩手県支部今昔雑感	32
下天の内をくらぶれば（出羽三山山伏修行）	32
40年ぶりの再結成ライブ	33
薪ストーブのある暮らし	33
趣味	34
オトナの都市農村交流のスヌメⅡ～宮城県丸森町での交流会報告～	34
農工大学卒業後を振り返って	35
北の国から～同窓生へ送る凍える便り～	35
キャンパス便り	
ハングライダー部に入って得たもの	36
アカペラサークルANIT	36
掲示板	37
広告	39
事務局だより	42

表紙の絵

「西東京国際イノベーション共創拠点（愛称：邂逅館）」

佐藤 勝昭（東京農工大学名誉教授）

題 字：澤野 勉（農化S32）

*同窓会で使用する学科略記は、学部卒業時の所属を基本としています（修士、博士から入学された方は、最初に修了した時の専攻になります）。学科略記表は同窓会HPの「同窓会について（組織・役員・委員会）」に掲載しています。

会長就任挨拶

会長 大伴 秀郎（農学S51）



この度東京農工大学同窓会会長を拝命いたしました大伴でございます。1976年に農学部農学科を卒業し、その後渡米。1979年にカルフォルニア州立大学で修士課程を修了した後、アメリカのサイアナミッド社に就職し、その後スイスのチバガイギー社、そして合併により、ノバルティス社、シンジェンタ社と名前が変わりましたが同じ組織で引き続き仕事をし、最後はドイツのBASF社で働きました。BASF社を引退したのちJICAから派遣されてモロッコで2年間農業関連のプロジェクトに携わりました。会社は幾つか変わりましたが、農薬、種苗、動物薬と一貫して農業関連の業界で働きました。その間、研究、開発、技術普及、営業、マーケティングを経験し、日本の都道府県は全て、そして一時アジアの国々を担当しましたので、海外では69か国を訪問し、長期滞在した国もアメリカ、スイス、香港、モロッコとなります。

この間日本は急速な経済発展を遂げましたが、バブルの崩壊後、失われた30年に突入し、ようやく最近デフレからの脱却の兆しが見えてきましたが、GDPは世界4位に転落し、一人当たりのGDPは世界37位（IMF）となっていました。経済面だけでなく、特許数、科学誌へ

の投稿論文数、そのサイテーション（引用）数、日本の大学のランキングなどの学術面での低下も、残念ながら見られます。

しかしながら、海外で外国人と接触すると良くわかるのですが、外国人の日本の文化に対する理解は高まり、それどころか国によっては愛着をおぼえ、そして尊敬すらしてくれる。これら日本へのまなざしを見ると、この間大きく改善されたと感じます。たしかに道にゴミを捨てる人は少なく、携帯を落としても持ち主のところに戻ってくる確率が高い、電車はきっちり時間通りに到着するし、人々は礼儀正しく、社会のルールを守り多くの場合他利的です。そして犯罪が少なく、小学生が一人で電車通学ができ、夜道の一人歩きもできる。これらの社会的道德心というのでしょうか、この特徴は何年も時間をかけわれわれ日本人が築き上げてきた、整備された道路、鉄道網、ライフラインなどの物理的インフラならぬ、社会精神的インフラではないでしょうか？

目には見えにくいですが、この精神的インフラを築き上げ、勤勉でルールを重んじ、社会を良くしていこうとする思想は金額には換算しにくいですが、実は大きな付加価値であると感じています。現にインバウンドで来日した旅行者が、日本へのリピーターになっているケースは、食事が美味しい、物が安い、などとともに、日本人の社会性に感激しているからと言えるでしょう。大学である以上学術的な問題の解決の一助となるように努力するのは当然ですが、この精神的付加価値を同窓会の活動を通じて大学に生かせるよう考えていきたいと思ひます。

会長退任挨拶

五味 勝（電子S54）



東京農工大学同窓会の皆さま

拝啓、皆さまにおかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、私は2025年6月の総会をもって東京農工大学同窓会会長を退任いたしました。この間、同窓会の発展と大学との連携強化を目指し、多くの活動に取り組んでまいりました。これもひとえに、会員の皆さま方の温かいご支援とご協力のおかげであると深く感謝しております。

当初、私は2021年6月の総会で会長に選任され、通常の任期である2年一期を務める予定でした。しかし、諸般の事情もあり2023年以降も引き続き務めさせていただくこととなり、結果として2期4年間お世話になることができました。コロナ禍という未曾有の事態に直面し、同窓会活動の在り方を見直す必要に迫られましたが、会員の皆さまのアイデアや柔軟な対応に助けられ、新たな形での活動を模索する機会となりました。

特に力を注いだのは、オンライン環境やSNSを活用し

た同窓会活動の拡充です。これにより、地理的・時間的制約を超えた交流の場を提供することが可能となり、国内外を問わず多くの同窓生が参加しやすい環境を整えることができました。また、母校との連携を強化する取り組みとして、現役学生への支援活動を一層充実させ、同窓会が次世代を支える架け橋となるべく努めてまいりました。

もちろん、活動のすべてが順調であったわけではありません。会員数の拡大やより多くの方々、特に若い世代の方々に同窓会活動の魅力を伝えるための広報活動には、今後も課題が残ると感じております。これらの課題に対して、新会長及び新しい体制のもと新たな工夫や取り組みが行われ、さらなる発展が遂げられることを心より期待しております。

最後になりますが、在任中にいただいた数多くのご支援と温かいお言葉に心より御礼申し上げます。同窓会の一員としての絆の強さと誇りを実感し、改めて東京農工大学の歴史と伝統の重みを深く感じる4年間でした。

退任後は、一会員として引き続き同窓会活動に参加し、微力ながら支援を続けてまいります。同窓会がますます発展し、会員の皆さま一人ひとりにとって価値ある存在であり続けることを祈念しつつ、退任のご挨拶とさせていただきます。

敬具

理事長就任の挨拶

理事長 野口 恵一（材料H1）



このたび、東京農工大学同窓会の理事長を拝命いたしました、平成元年工学部卒業の野口恵一と申します。戸田浩人前理事長の後を引き継ぎ、微力ながら全力を尽くしてまいります。

昨年度、本学は創基150周年を迎えました。また、東京農工大学としては創立75周年を迎え、これまで農学・工学の分野において数多くの優れた人材を輩出してまいりました。全国、さらには世界各地でご活躍されている同窓生の皆さまのご尽力により、本学の名声は今なお高まり続けております。私たち同窓会の役割は、そうした卒業生同士のつながりを深めるとともに、母校のさらなる発展に寄与していくことにあります。これからの同窓会活動においては、柔軟な発想と新たな取り組みが求められることでしょう。若手卒業生との連携強化やオンラインでの交流拡充、母校との協働

のあり方などについて、会長、運営委員、事務局の皆さまとともに、さまざまな可能性を追求してまいりたいと考えております。同窓会事務局「こうほう支援室」では、同窓会ホームページ内の「交流ラウンジ」を通じて、卒業生や在校生の活躍を紹介しております。会員の皆さまの交流の一助として、ぜひご活用いただければ幸いです。

創基150周年の記念事業の一環として、府中キャンパスに新設された「西東京国際イノベーション共創拠点」において使用される机や椅子を、同窓会より寄贈いたしました。これらの調度品は、本学演習林の樹木や建物の建設にともない伐採された支障木を材料として製作を委託したものです。また、小金井キャンパスでは、在校生の意見をもとに、総合会館食堂の一部に「くつろげる場所」を整備し、その費用を同窓会から寄付いたしました。ご支援頂きありがとうございます。

同窓生の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。そして、皆さまとの交流を通じて、同窓会の輪がいつそう広がっていくことを願ってやみません。

結びに、皆さまのますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

理事長退任の挨拶

戸田 浩人（林学S59）



同窓会会員の皆様、理事の皆様には日頃からご理解ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで無事、2年間理事長を務めることができました。厚く御礼申し上げます。

私が理事長を務めました令和5・6年は、前年までコロナ禍でオンライン開催であった理事会、副会長懇談会・部会長会議がほぼ対面開催できるようになりました。支部や部会の総会もコロナ禍以前のように開催されるようになり、多くの支部・部会から本部の同窓会運営委員等の総会への派遣要請をいただきました。支部総会で教員の特徴的な研究の講演要請もあり、運営委員以外の教員にもご協力いただき同窓生との交流

の輪を広げることができたことは、同窓会として非常に喜ばしいことでした。

令和6年度の本学創基150周年には、同窓会事業として府中・小金井の両キャンパスの施設整備費用を一千万円ずつ準備し、府中キャンパスでは共創の場として新しく建てられた「邂逅館」の学生らが集うスペースへ、建築の際の支障木や演習林の樹木を使用した机・椅子などを作成・寄贈しました。小金井キャンパスでも学生が気兼ねなく遅い時間まで集い交流できるスペースの整備を行うなど、準会員である学生生活の充実に資する事業を実施することができました。これもひとえに関係各位のご理解とご尽力の賜物と感謝申し上げます。

このような同窓会活動は、五味会長、野口・大川副理事長、斎藤事務局長、運営委員および事務の方々に支えられていることを実感した次第です。改めて、ここに深く感謝申し上げ、退任のご挨拶といたしたいと存じます。今後も、微力ではありますが、一運営委員として同窓会の発展に貢献したいと思っております。



一般社団法人東京農工大学同窓会 第7回定時総会

■日時：令和7年6月21日（土）13：00～14：10 ■場所：小金井キャンパス
■総会出席者：94名 決議書提出者22名 合計116名

第7回定時総会は、6月21日（土）小金井キャンパス140周年記念会館で開催された。欠席者には事前の決議書の提出を可能とした。議事に先立ち、五味会長から挨拶があり、来賓の千葉学長から「地球をまわす世界第一線の研究大学へ」と題するご講演をいただいた。定時総会の開催にあたって、野口副理事長から定足数を満たしたとの報告があった後、議事に入った。

議事

審議事項1 議事録署名人選出の件

戸田理事長から、議事録署名人の選出について、当初候補者であった有馬卓司氏が欠席のため、代わりの候補者として赤井伸行氏を推薦する旨の説明があった。これにより、議事録署名人候補者は伊豆田猛氏、赤井伸行氏の2名となった。審議の結果、満場一致で伊豆田猛氏および赤井伸行氏が議事録署名人として選任された。なお、本件は総会当日の出席者による選出であるため、書面による事前の議決権行使は本議案の採決の対象とならないことが確認された。

審議事項2 会長・副会長・理事及び監事選任の件

戸田理事長から、会長・副会長・理事及び監事の選任の件について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

※選任された会長・副会長・理事及び監事は7ページの「同窓会役員等体制」を参照。

審議事項3 令和6年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件

報告事項① 令和6年度事業報告の件



報告事項② 令和6年度監査報告の件

上記案件は関連するため、一括して審議及び報告がなされた。

戸田理事長から、令和6年度貸借対照表【別記1】、正味財産増減計算書【別記2】、令和6年度事業報告【別記3】の説明があった。また、鈴木監事から令和6年度の監査報告があった。審議の結果、審議事項3が承認され、報告事項1及び2が確認された。

審議事項4 定款の一部変更の件

戸田理事長から、定款の一部変更の件について説明があり、審議の結果、原案どおり、特定目的事業財産の余裕金を運用対象とすることについて承認された。

報告事項③ 令和7年度事業計画の件

戸田理事長から、令和7年度事業計画【別記4】について説明があり、これを確認した。

報告事項④ 令和7年度収支予算の件

戸田理事長から、令和7年度収支予算【別記5】について説明があり、これを確認した。

【別記1】 貸借対照表 令和7年3月31日現在

一般社団法人 東京農工大学同窓会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	38,517,313	60,489,961	△ 21,972,648
現金	46,702	33,074	13,628
当座預金	23,925,875	34,948,894	△ 11,023,019
普通預金	14,544,736	25,507,993	△ 10,963,257
仮払金	12,670	0	12,670
流動資産合計	38,529,983	60,489,961	△ 21,959,978
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	45,000,000	45,000,000	0
普通預金	770,500	770,500	0
投資有価証券	284,229,500	284,229,500	0
基本財産合計	330,000,000	330,000,000	0
(2) 特定資産			
学生援助事業積立資産	113,774,563	119,204,315	△ 5,429,752
退職給付引当資産	1,072,260	589,260	483,000
特定資産合計	114,846,823	119,793,575	△ 4,946,752
固定資産合計	444,846,823	449,793,575	△ 4,946,752
資産合計	483,376,806	510,283,536	△ 26,906,730

科 目	当年度	前年度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	156,521	260,932	△ 104,411
流動負債合計	156,521	260,932	△ 104,411
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,072,260	589,260	483,000
固定負債合計	1,072,260	589,260	483,000
負債合計	1,228,781	850,192	378,589
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	113,774,563	119,204,315	△ 5,429,752
指定正味財産合計	113,774,563	119,204,315	△ 5,429,752
(うち特定資産への充当額)	(113,774,563)	(119,204,315)	(△ 5,429,752)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(330,000,000)	(330,000,000)	(0)
正味財産合計	482,148,025	509,433,344	△ 27,285,319
負債及び正味財産合計	483,376,806	510,283,536	△ 26,906,730

【別記2】 正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

一般社団法人 東京農工大学同窓会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[1,241,449]	[1,240,849]	[600]
基本財産受取利息	1,241,449	1,240,849	600
運用財産収入	[28,889,448]	[30,890,311]	[△ 2,000,863]
入会金	3,465,000	3,990,000	△ 525,000
年会費	451,500	525,000	△ 73,500
終身会費	1,990,000	1,820,000	170,000
賛助会費	20,730,000	23,860,000	△ 3,130,000
利息	7,448	311	7,137
寄附金	2,105,500	40,000	2,065,500
雑収入	140,000	655,000	△ 515,000
受取寄附金振替額	[5,429,752]	[5,140,814]	[288,938]
経常収益計	35,560,649	37,271,974	△ 1,711,325
(2) 経常費用			
運用財産支出	[51,986,464]	[29,953,172]	[22,033,292]
事業費	(14,720,209)	(14,032,264)	(687,945)
動静調査費	407,368	410,000	△ 2,632
会報発行費	6,080,673	5,985,289	95,384
H P 管理作成費	5,500	20,770	△ 15,270
部会・支部活動費	5,223,400	4,400,000	823,400
こうほう支援室事業費	1,240,132	1,132,628	107,504
卒業生援助費	1,506,486	1,301,514	204,972
同窓会の森管理費	2,550	511,600	△ 509,050
資料整備費	254,100	270,463	△ 16,363
会議費	(4,428,789)	(3,258,425)	(1,170,364)
総会会議費	2,608,274	2,635,542	△ 27,268
副会長懇談会（部会長会）会議費	99,666	94,550	5,116
運営委員会会議費	1,737	8,457	△ 6,720
理事会会議費	382,452	519,876	△ 137,424
支部長会会議費	1,336,660	0	1,336,660
管理費	(32,837,466)	(12,662,483)	(20,174,983)
人件費	7,204,136	6,943,539	260,597
社会保険料等	1,383,113	1,192,418	190,695
消耗品費	108,478	75,148	33,330
複写機トータルサービス料	474,102	492,939	△ 18,837
通信費	153,519	160,338	△ 6,819
旅費	1,189,323	891,933	297,390
事務用品印刷費	0	51,590	△ 51,590
慶弔費	4,634	14,008	△ 9,374
光熱水費	170,843	194,223	△ 23,380
職員厚生費	20,502	23,801	△ 3,299
退職給付費用	483,000	250,000	233,000
振込手数料	238,314	259,590	△ 21,276
租税公課	261,258	260,074	1,184
寄附金（創基150周年事業協力費）	20,000,000	0	20,000,000
その他雑費	1,146,244	1,852,882	△ 706,638
特定目的事業財産支出	[5,429,752]	[5,140,814]	[288,938]
学生援助事業費	5,429,752	5,140,814	288,938
経常費用計	57,416,216	35,093,986	22,322,230
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 21,855,567	2,177,988	△ 24,033,555
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 21,855,567	2,177,988	△ 24,033,555
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 21,855,567	2,177,988	△ 24,033,555
一般正味財産期首残高	390,229,029	388,051,041	2,177,988
一般正味財産期末残高	368,373,462	390,229,029	△ 21,855,567
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	[△ 5,429,752]	[△ 5,140,814]	[△ 288,938]
受取寄附金	△ 5,429,752	△ 5,140,814	△ 288,938
当期指定正味財産増減額	△ 5,429,752	△ 5,140,814	△ 288,938
指定正味財産期首残高	119,204,315	124,345,129	△ 5,140,814
指定正味財産期末残高	113,774,563	119,204,315	△ 5,429,752
III 正味財産期末残高	482,148,025	509,433,344	△ 27,285,319

【別記3】 令和6年度事業報告

(1) 第6回定時総会の開催

令和6年6月22日（土）、府中キャンパスにおいて第6回定時総会を開催した。議事内容は、審議事項として、議事録署名人選出の件、令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件、並びに選挙管理委員選出の件、報告事項として、令和5年度事業報告の件、令和5年度監査報告の件、令和6年度事業計画の件、令和6年度収支予算の件、その他とした。

(2) 令和6年度各種会議の開催

理事会を令和6年5月、11月及び令和7年3月に開催した。令和6年11月には、副会長懇談会・部会長会並びに支部長会を開催した。

(3) 同窓会組織の強化及び活性化

- 一般社団法人に相応しい安定的な運営体制を確立するため、規則の見直し及び財政運営に関する検討を実施した。
- 部会・支部・職域組織における同窓意識の向上と会

員交流の促進を図る施策として、継続して同窓会会報「農工通信」を発行するとともに、同窓会ホームページによる各種情報発信の充実を図った。

3. こうほう支援室の事業として、大学との連携・協力の下、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学学生、高校生、会員等、学内外に広報するための取材活動を行い、その成果を同窓会HPのサイト「交流ラウンジ」に掲載した。
4. 学内外に対し、同窓会活動への理解を求め、同窓会紹介パンフレット及び同窓会WEBサイトによるPR活動に努めた。
5. 部会・支部からの要請に応じ、運営委員等本部役員を派遣し、同窓会本部との交流を促進した。
6. 部会・支部活動の活性化に向けた支援策を検討するため、部会長会及び支部長会において意見交換を実施した。
7. 卒業生に対し、大学が発行する証明書の発行手数料の一部を援助した。
8. 同好会活動に対し、運営費の補助を行った。
9. 入会金・賛助会費等の会費納付率向上を図るため、同窓会入会の再案内を実施した。
10. 賛助会費等の払込票を入会申込書と兼用することにより、入会書による手続きを省略し、郵送料の削減を図った。
11. 農工通信の未着信会員について、追跡による動静調査を実施した。
12. 祝電・弔電による祝意・弔意を表するとともに、本会の発展に顕著な功績があった者に対し感謝状を贈呈した。

(4) 準会員（学生）に対する援助事業の実施

1. 大学と協力し、同窓会推薦キャリア・アドバイザーの派遣や合同企業説明会への協力等の援助を行い、同窓会準会員（学生）に対する就職支援を実施した。
2. 準会員の勉学・学生生活に関し、学会・コンテスト・コンクール等の発表・入賞祝金、学会誌・論文誌発表等援助金、優秀卒論副賞等の援助金、学園祭・課外活動への援助金、並びに卒業・修了証書カバーの贈呈を行った。

(5) その他

東京農工大学創基150周年記念事業として、学生環境整備への充당을目的とし、府中及び小金井キャンパスにそれぞれ10,000千円の寄附を行った。府中キャンパスにおいては、3月に新設された「西東京国際イノベーション共創拠点」の調度品として、当該地支障木や演習林樹木を材料として製造した家具を寄贈した。また、小金井キャンパスにおいては、学生が休息できる場所の整備に本寄附金を充当し、工学部総合会館の一部が令和7年度に改修される予定である。

【別記4】令和7年度事業計画

(1) 第7回定時総会の開催

令和7年6月21日（土）小金井キャンパスにて第7回定時総会を開催する。

議事内容は、審議事項1 議事録署名人選出の件。審議事項2 会長・副会長・理事および監事選任の件。

審議事項3 令和6年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の件。報告事項① 令和6年度事業報告の件。報告事項② 令和6年度決算報告の件。審議事項4 定款の一部変更の件。報告事項③ 令和7年度事業計画の件。報告事項④ 令和7年度収支予算の件。その他。

(2) 令和7年度各種会議の開催

令和7年5月、11月及び令和8年3月に理事会を開催する。令和7年11月に副会長懇談会・部会長会を開催する。

(3) 同窓会組織の強化及び活性化

- 1) 一般社団法人にふさわしい形で、安定した運営が行えるようにするため、規則の見直しや財政運営の検討を行う。
- 2) 部会・支部の同窓意識の向上と会員交流の促進を図る方策として、引き続き同窓会会報「農工通信」を発行するとともに、同窓会ホームページにより各種情報発信の充実を図る。
- 3) こうほう支援室の事業として、大学と連携・協力しながら、同窓生が各地域や職場で活躍している情報を在学学生、高校生、会員等、学内外に広報するための取材活動を行う。
- 4) 学内外問わず、同窓会活動を理解いただくよう、同窓会紹介パンフレット（入学時及びペアレンツデーにて配布）及び同窓会WEBによるPR活動に努める。
- 5) 部会・支部の要請に応じ、運営委員等本部員の派遣を行い、同窓会本部との交流を図る。
- 6) 部会・支部活動の活性化のための支援の方策を検討する。
- 7) 卒業生に対して、大学が発行する証明書の発行手数料を援助する。
- 8) 同好会活動の支援を行う。
- 9) 入会金・賛助会費等の会費の更なる納付率向上のための方策を検討する。
- 10) 歳出削減に努める。
- 11) 農工通信の未着信な会員について追跡の動静調査を行う。
- 12) 祝電・弔電により祝意・弔意を表する。また本会の発展に顕著な功績があった者に感謝状を贈呈する。

(4) 準会員（学生）に対する援助事業の実施

- 1) 大学と協力しながら同窓会推薦キャリア・アドバイザーの派遣や大学主催の合同企業説明会への協力等援助をすることを通して、同窓会準会員（学生）に対する就職支援を行う。
- 2) 準会員の勉学・学生生活に関して、学会・コンテスト・コンクール等の発表・入賞祝、学会誌・論文誌発表等援助、優秀卒論表彰の援助、学園祭・課外活動の援助及び卒業・修了証書カバーの贈呈を行う。

(5) その他

【別記5】 令和7年度収支予算

(単位：円)

区分	細分	項 目	令和7年度 予算額	令和6年度 予算額	差 異	予算積算の考え方		
基本財産	収入	基本財産（前年度繰越金）	330,000,000	330,000,000	0			
		余剰金からの繰入（30％超える分）	0	0	0			
		上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0			
		収入合計	330,000,000	330,000,000	0			
	支出	他の財産へ繰出	0	0	0			
		支出合計	0	0	0			
基本財産残高			330,000,000	330,000,000	0			
運用財産	収入	前年度繰越金	23,000,000	44,000,000	△ 21,000,000			
		入会金	4,000,000	4,000,000	0	令和3年度から令和5年度の実績平均ベース		
		年会費	500,000	500,000	0	令和3年度から令和5年度の実績平均ベース		
		終身会費	1,700,000	1,700,000	0	令和3年度から令和5年度の実績平均ベース		
		賛助会費	24,000,000	24,000,000	0	令和3年度から令和5年度の実績平均ベース		
		利息	1,000	1,000	0	令和3年度から令和5年度の実績平均ベース		
		寄附金	100,000	1,000	99,000	令和3年度から令和5年度の実績平均ベース		
		雑収入	200,000	500,000	△ 300,000	農工通信広告収入見込等		
		基本財産運用益	1,240,000	1,200,000	40,000	利付国債利息収入見込等		
	収入合計			54,741,000	75,902,000	△ 21,161,000		
	支出	事業費計			16,820,000	16,520,000	300,000	
		動静調査等管理費			600,000	600,000	0	動静調査はがき印刷費及び郵便料
		会報発行費			6,500,000	6,500,000	0	農工通信106号発行費用見込額
		H P管理作成費			200,000	200,000	0	HP維持管理費等（前年同）
		部会・支部活動費			6,300,000	6,300,000	0	運営費補助等（前年同）
		こうほう支援室事業費			1,300,000	1,300,000	0	所要額積算（人件費、取材協力費等）
		卒業生援助費			1,600,000	1,300,000	300,000	卒業修了証書カバー費用見込、証明書発行手数料補助等
		同窓会の森管理費			20,000	20,000	0	記念標柱管理費用（現地点検費用等）
		資料整備費			300,000	300,000	0	パンフレット、リーフレット印刷費等（前年同）
		会議費計			4,850,000	6,350,000	△ 1,500,000	
		総会会議費			4,000,000	4,000,000	0	出席旅費等（前年同）
		副会長懇談会(部会長会)会議費			200,000	200,000	0	出席旅費等（前年同）
		運営委員会会議費			50,000	50,000	0	出席旅費等（前年同）
		理事会会議費			600,000	600,000	0	出席旅費等（前年同）
		支部長会会議費			0	1,500,000	△ 1,500,000	今期未開催
		管理費計			16,643,000	36,863,000	△ 20,220,000	
		人件費			7,800,000	7,800,000	0	職員給与（前年同）
		社会保険料等			1,300,000	1,300,000	0	事業主負担保険料（前年同）
		備品費			200,000	200,000	0	前年度予算と同額
		消耗品費			500,000	500,000	0	前年度予算と同額
		複写機トータルサービス料			600,000	600,000	0	会議資料等コピー料金（前年同）
		通信費			250,000	250,000	0	電話料、宅配代金等（前年同）
		旅費			1,700,000	1,700,000	0	支部派遣旅費等（前年同）
		事務用品印刷費			70,000	70,000	0	前年度予算と同額
		慶弔費			50,000	50,000	0	前年度予算と同額
		光熱水費			230,000	230,000	0	前年度予算と同額
		職員厚生費			30,000	30,000	0	職員健康診断費用補助（前年同）
		退職給付費用			263,000	483,000	△ 220,000	退職手当必要額の引当
		振込手数料			350,000	350,000	0	前年度予算と同額
		租税公課			300,000	300,000	0	法人税等（実績ベース）
		寄付金			0	20,000,000	△ 20,000,000	
		その他雑費			3,000,000	3,000,000	0	システム保守料、監査法人指導料等、その他予備費的な予算計上
		予備費			0	0	0	
		支出合計			38,313,000	59,733,000	△ 21,420,000	
	運用財産残高			16,428,000	16,169,000	259,000	次年度繰越見込（収入予算－支出予算）	
	特定目的事業財産	収入	前年度繰越金	129,000,000	134,000,000	△ 5,000,000	繰越見込額	
			余剰金からの繰入（30％超える分）	0	0	0		
			上記以外の余剰金からの繰入	0	0	0		
			収入合計	129,000,000	134,000,000	△ 5,000,000		
		支出	学生援助事業費	7,000,000	7,000,000	0	前年度予算と同額	
被災会員支援事業費			1,000,000	1,000,000	0	前年度予算と同額		
その他本財産に適合する事業費			1,000,000	1,000,000	0	その他事業費		
支出合計			9,000,000	9,000,000	0			
特定目的事業財産残高			120,000,000	125,000,000	△ 5,000,000			
合 計			466,428,000	471,169,000	△ 4,741,000			
退職給付費用引当資産	収入	前年度繰越金	1,072,260	589,260	483,000			
		運用財産からの繰り入れ	263,000	483,000	△ 220,000			
		収入合計	1,335,260	1,072,260	263,000			
	支出	退職手当給付金	1,335,260	1,072,260	263,000			
		支出合計	1,335,260	1,072,260	263,000			
退職給付費用引当資産合計			0	0	0			
総 合 計			466,428,000	471,169,000	△ 4,741,000			

同窓会役員等体制と部会長・支部長及び連絡員表

同窓会役員等体制（第7回定時総会終了時～第9回定時総会）

会 長	大伴 秀郎（農学S51）	竹村 淳（電子H3）	電気電子工学会	理 事	森井 源藏（農工S50）
		伊東 浩（応物S52）	物理システム工学会	〃	三宅 信行（環保S55）
		加藤 美治（MOT H21）	MOT部会	〃	寺峰 孜（養蚕S45）
		二見 能資（生シ博H17）	BASE部会		
		船田 良（連農S63）	連合農学部会	監 事	
副会長				加藤 誠（農工S44）	
内藤 廣信（農学S41）	農学・生物生産学部会			鈴木 創三（農学S47）	
安藤 俊幸（蚕糸S49）	蚕糸生物学部会	理 事 長	野口 恵一（材料H1）		
仲井まどか（植防S62）	植防・応用生物学部会	副理事長	大川泰一郎（農学S62）	運営委員	
田中 智章（農化S60）	農芸化学・応用生命化学部会	副理事長	田中 剛（物生H7）	総務部長	桑原 利彦（生機S57）
近江 正陽（林産S60）	林産・生物資源工学会	理 事	内藤 廣信（農学S41）	副部長	戸田 浩人（林学S59）
多羅尾光徳（環保H3）	環境科学部会	〃	安藤 俊幸（蚕糸S49）	副部長	金田 正弘（獣医H12）
近藤 豊（林学S58）	林学部会	〃	近藤 豊（林学S58）	事業部長	赤井 伸行（環資H11）
田島 淳（農工S56）	生産環境工学会	〃	千田 武（織工S46）	副部長	岡本 昭子（応化H15）
小池 伸介（地生H13）	地域生態システム学部会	〃	高野 文夫（化工S51）	経理部長	斉藤美佳子（工化H1）
田谷 一善（獣医S46）	獣医学部会	〃	加藤 美治（MOT H21）	副部長	水川 薫子（環資H18）
溝口 正伸（製糸S46）	製糸・高分子・生命工学会	〃	目黒 友（蚕糸S53）	広報・情報部長	村上 尚（応化H12）
千田 武（織工S46）	繊維・有機材料部会	〃	南木 好樹（農工S58）	副部長	岡田 洋平（応生H19）
高野 文夫（化工S51）	化学工学会	〃	栗原 知（林学S47）	副部長	利谷 翔平（化シスH20）
太田 克朗（工化S50）	応用分子化学部会				
桑原 利彦（生機S57）	機械システム工学会				

同窓会部会長及び連絡員（令和7年7月15日現在）

部会名	部会長名	連絡員名
農学・生物生産学部会	内藤 廣信（農学S41）	安達 俊輔（生産H19）
蚕糸生物学部会	安藤 俊幸（蚕糸S49）	金勝 一樹（蚕糸S58）
植防・応用生物学部会	仲井まどか（植防S62）	仲井まどか（植防S62）
農芸化学・応用生命化学部会	田中 智章（農化S60）	好田 正（特別会員）
林産・生物資源工学会	近江 正陽（林産S60）	安藤 恵介（林産H2）
環境科学部会	多羅尾光徳（環保H3）	渡邊 誠（環資H11）
林学部会	近藤 豊（林学S58）	戸田 浩人（林学S59）
生産環境工学会	田島 淳（農工S56）	帖佐 直（農工H4）
地域生態システム学部会	小池 伸介（地生H13）	吉川 正人（環保H5）
獣医学部会	竹原 一明（獣医S56）	金田 正弘（獣医H12）
製糸・高分子・生命工学会	溝口 正伸（製糸S46）	山田 晃世（高工H4）

部会名	部会長名	連絡員名
繊維・有機材料部会	千田 武（織工S46）	渡邊 敏行（材料S61）
化学工学会	高野 文夫（化工S51）	滝山 博志（化工S62）
応用分子化学部会	太田 克朗（工化S50）	村上 尚（応化H12）
機械システム工学会	桑原 利彦（生機S57）	ラフィチャランヤク ボシヤーン（機シス院H14）
電気電子工学会	竹村 淳（電子H3）	竹村 淳（電子H3）
物理システム工学会	伊東 浩（応物S52）	村山 能宏（特別会員）
MOT部会	加藤 美治（MOT H21）	夏 恒（機シス博H7）
BASE部会	二見 能資（生シ博H17）	赤井 伸行（生シ博H16）
連合農学部会	船田 良（連農S63）	大倉 茂（連農H24）

同窓会支部長及び連絡員（令和7年7月15日現在）

支部名	支部長名	連絡員名
北海道	藤田 二（農工S58）	岩佐 秀明（高工H1）
青 森	大橋 統州（農学S54）	楠美 祥行（電子S58）
岩 手	藤原 哲雄（農学S60）	小澤 結（環資H11）
宮 城	鈴木 正彦（林学S57）	豊川 高弘（地生H17）
秋 田	倉部 明彦（農工S57）	畠山 欣也（環・資H8）
山 形	大嶋 博之（植防S60）	小林賢太郎（生産H30）
福 島	目黒 友（蚕糸S53）	横山 健（国際院H22）
茨 城	川野 和彦（林学S50）	磯邊 晋吾（林学S62）
栃 木	南木 好樹（農工S58）	篠崎 敦（生産H18）
群 馬	山本 明（農工S45）	影澤 圭太（林産H3）
埼 玉	金本 伸郎（農学S51）	竹詰 一（農学H2）
千 葉	伊藤 道男（林学S48）	津金 胤昭（応生H6）
東 京	栗原 知（林学S47）	須藤 晃（植防S58）
神奈川	坂本 英介（蚕糸S53）	笠木 一行（農工S62）
新 潟	並木 茂吉（蚕糸S50）	村山 康則（農学H3）
富 山	小杉 啓一（林学S54）	飯野 師（地生H18）
石 川	坂口浩一郎（林学S58）	濱崎 貴史（環資H15）
福 井	野坂 雄二（農工S53）	新海 隆介（環・資H12）
山 梨	眞浦 正徳（養蚕S46）	小松澤 靖（林学H2）
長 野	鈴木 秀行（農学S55）	小坂橋晴之（地生H19）
岐 阜	雨宮 功治（植防S60）	二木 次郎（林産H4）
静 岡	杉山 嘉英（林学S52）	小松 鷹介（地生H23）
愛 知	城戸 毅（林学S58）	山口 知幸（農学H4）
三 重	西野 実（生産H7）	豊田 晶子（生産H18）

支部名	支部長名	連絡員名
滋 賀	森井 源藏（農工S50）	鈴木 一成（地生H25）
京 都	松井 崇（農工S51）	平野 孝志（農工S53）
大 阪	佐々木良和（農工S39）	中野 淳（機機S60）
兵 庫	上坂 修一（林産S54）	檜野 由憲（林産S59）
奈 良	山本 治幸（電気S54）	岩治 新（地生H20）
和歌山	中尾 俊二（林学S53）	森本 唯史（地生H16）
鳥 取	江原 宏昭（農学院S48）	坂東 悟（農化S61）
島 根	松浦 史瑞（林産H1）	中島 敬（農工H4）
岡 山	渡邊 直人（林学S50）	佐野 大樹（生産院H16）
広 島	三宅 信行（環保S55）	石田 一之（機機S59）
山 口	松村 聡（工化S46）	岡本 賢一（植防H4）
徳 島	小杉純一郎（林学S63）	竹内 俊博（化工H4）
香 川	鳥取 康治（織高S51）	遠藤 克彰（機シスH24）
愛 媛	鋤先 孝一（環保S52）	尾中 直道（環・資H7）
高 知	寺峰 孜（養蚕S45）	豊田 陽一（蚕糸S57）
福 岡	後藤 卓（林産S50）	平島 亮介（生産H13）
佐 賀	御厨 秀樹（植防S56）	御厨 秀樹（植防S56）
長 崎	古賀 淳士（農学S52）	植村 直己（生産H7）
熊 本	堀 洋一（織高S51）	上野 周子（植防S61）
大 分	板井 隆（農学S52）	池上 哲生（農学H4）
宮 崎	森 房光（林学S53）	川越 研太（機シスH23）
鹿児島	平 繁人（養蚕S45）	長谷川信幸（製糸S54）
沖 縄	茂木 正徳（環保S54）	大城 篤（応生H9）

部会代議員〔任期：選出時（令和6年10月22日）から次回改選時（2年後）まで〕

【部会関係者】

推薦母体	氏名 (部会長枠)	氏名 (一般)					
部会長会	大伴 秀郎 (農学 S51)						
農学・生物生産学部会	内藤 廣信 (農学 S41)	板橋 久雄 (農学 S39)	早川 潔 (農学 S41)	南波 利昭 (農学 S46)	横山 正 (農学 S53)	滝沢 将史 (生産 H8)	
蚕糸生物学部会	安藤 俊幸 (蚕糸 S49)	菊池 雅美 (蚕糸 S56)					
植防・応用生物学部会	仲井まどか (植防 S62)	安藤 哲 (植防 S47)	國見 裕久 (養蚕 S48)				
農芸化学・応用生命化学部会	田中 智章 (農化 S60)	井口 秀樹 (農化 S60)	加納 優子 (農化 S62)	染谷 健児 (農化 H5)	若松 弘起 (応生 H25)		
林産・生物資源工学部会	近江 正陽 (林産 S60)	安藤 恵介 (林産 H2)	吉田 誠 (環資 H12)	半 智史 (環物院 H18)			
環境科学部会	多羅尾光徳 (環保 H3)	伊豆田 猛 (環保 S59)	渡邊 誠 (環資 H11)	黒岩 恵 (環資 H22)			
林学部会	近藤 豊 (林学 S58)	難波 伸幸 (林学 S49)	塚原 道夫 (林学 S51)	淡中 克巳 (林学 S59)			
生産環境工学部会	田島 淳 (農工 S56)	圓山 満久 (農工 S58)	帖佐 直 (農工 H4)				
地域生態システム学部会	小池 伸介 (地生 H13)	山口 泰民 (地生 H12)	八色 宏昌 (地生 H12)	大倉 茂 (地生 H19)	深井 敬哲 (地生 H20)		
獣医学部会	田谷 一善 (獣医 S46)	津曲 公夫 (獣医 S43)	木島まゆみ (獣医 S58)	柴田 千尋 (獣医 H15)			
製糸・高分子・生命工学部会	溝口 正伸 (製糸 S46)	花輪 正明 (製糸 S46)	高林 千幸 (製糸 S48)	中島 健一 (製糸 S58)	熊澤志津子 (高工 H4)	浅川 賢史 (生命 H26)	
繊維・有機材料部会	千田 武 (織工 S46)	原島 朝雄 (織工 S49)	金子 由実 (織高 S51)				
化学工学部会	高野 文夫 (化工 S51)	板垣 和雄 (化工 S48)	紫垣 由城 (化工 S52)	加藤 之貴 (化工 S60)			
応用分子化学部会	太田 克朗 (工化 S50)	遠藤 幸一 (工化 S46)	平野 正雄 (工化 S48)	郡司 知和 (工化 S58)	濱口 高嘉 (工化 S62)	富樫 理恵 (分子 H16)	
機械システム工学部会	桑原 利彦 (生機 S57)	今成 昌文 (機械 S57)	大谷 幸利 (機シス S62)	武藤 篤生 (機シス H1)	北村 光 (機械 H2)	中村 秀一 (機シス H2)	渡邊 力夫 (機シス H5)
		西澤 宇一 (機シス H12)	伊藤 幸弘 (機シス H14)	山本 将之 (機シス博 H14)	太田 亨 (機シス H14)		
電気電子工学部会	竹村 淳 (電子 H3)	有馬 卓司 (電情 H10)					
物理システム工学部会	伊東 浩 (応物 S52)						
情報工学部会							
M O T 部会	加藤 美治 (M O T H21)	野地 英昭 (M O T H20)					
B A S E 部会	二見 能資 (生シ博 H17)	赤井 伸行 (生シ博 H16)	岡村 拓弥 (生シ院 H29)	市原凜太郎 (生シ院 H29)			
連合農学部会	船田 良 (連農 S63)	野村 義宏 (連農 H2)					

支部・立候補代議員〔任期：選出時（令和6年10月22日）から次回改選時（2年後）まで〕

【支部関係者】

推薦母体	氏名 (支部長枠)	氏名 (一般)	推薦母体	氏名 (支部長枠)	氏名 (一般)
北海道	藤田 二 (農工 S58)	濱口 大志 (農工 H2)	滋 賀	森井 源藏 (農工 S50)	南井 隆 (林学 H1)
青 森	大橋 統州 (農学 S54)	楠美 祥行 (電子 S58)	京 都	松井 崇 (農工 S51)	平野 孝志 (農工 S53)
岩 手	深澤 光 (林学 S56)	藤原 哲雄 (農学 S60)	大 阪	佐々木良和 (農工 S39)	森田 成昭 (機シス H8)
宮 城	鈴木 正彦 (林学 S57)	相澤 孝夫 (林学院 S58)	兵 庫	上坂 修一 (林産 S54)	石田あずさ (農工 H4)
秋 田	倉部 明彦 (農工 S57)	舩谷 雅広 (農工 S61)	奈 良	山本 治幸 (電気 S54)	宮本 大輔 (農学 H2)
山 形	大嶋 博之 (植防 S60)	大貫 典子 (獣医 H6)	和歌山	中尾 俊二 (林学 S53)	城戸 杉生 (林産 S56)
福 島	目黒 友 (蚕糸 S53)	本馬 昌直 (農学 H2)	鳥 取	江原 宏昭 (農学院 S48)	坂東 悟 (農化 S61)
茨 城	川野 和彦 (林学 S50)	吉岡 路裕 (農学 S54)	島 根	松浦 史瑞 (林産 H1)	中島 敬 (農工 H4)
栃 木	南木 好樹 (農工 S58)	田中 好一 (機械 S55)	岡 山	渡邊 直人 (林学 S50)	佐野 大樹 (生産院 H16)
群 馬	山本 明 (農工 S45)	藤井 昇 (蚕糸 S51)	広 島	三宅 信行 (環保 S55)	石田 一之 (機械 S59)
埼 玉	山永 高男 (植防 S53)	松村 一郎 (環保 S55)	山 口	松村 聡 (工化 S46)	馬場 崇史 (分子 H27)
千 葉	伊藤 道男 (林学 S48)	家壽多正樹 (農学 S59)	徳 島	小杉純一郎 (林学 S63)	竹内 俊博 (化工 H4)
東 京	栗原 知 (林学 S47)	尊田 京子 (農学 H2)	香 川	鳥取 康治 (織高 S51)	遠藤 克彰 (機シス H24)
神奈川	坂本 英介 (蚕糸 S53)	笠木 一行 (農工 S62)	愛 媛	鋤先 孝一 (環保 S52)	田中 美奈 (植防 S61)
新 潟	並木 茂吉 (蚕糸 S50)	齊藤木市(故) (林学 S55)	高 知	寺峰 孜 (養蚕 S45)	池田 康友 (林学 S62)
富 山	小杉 啓一 (林学 S54)	串田 泰彦 (農学 S62)	福 岡	後藤 卓 (林産 S50)	白石 哲広 (林産 S50)
石 川	坂口浩一郎 (林学 S58)	天井 慈則 (林産 S60)	佐 賀	御厨 秀樹 (植防 S56)	狩又 亮治 (生産 H24)
福 井	野坂 雄二 (農工 S53)	武田 真晃 (農学 S62)	長 崎	古賀 淳士 (農学 S52)	植村 直己 (生産 H7)
山 梨	眞浦 正徳 (養蚕 S46)	國友 義博 (蚕糸 S63)	熊 本	堀 洋一 (織高 S51)	江上 憲二 (林学 S54)
長 野	鈴木 秀行 (農学 S55)	平林 孝保 (農工 S61)	大 分	板井 隆 (農学 S52)	池上 哲生 (農学 H4)
岐 阜	工藤 正弘 (織工 S44)	雨宮 功治 (植防 S60)	宮 崎	森 房光 (林学 S53)	山本 泰嗣 (農学 S57)
静 岡	杉山 嘉英 (林学 S52)	天野 弘 (獣医 S53)	鹿児島	平 繁人 (養蚕 S45)	長谷川信幸 (製糸 S54)
愛 知	城戸 毅 (林学 S58)	片柳 光昭 (機械 S52)	沖 縄	茂木 正徳 (環保 S54)	高良 研一 (電電子 H16)
三 重	西野 実 (生産 H7)	古野 優 (獣医 S60)			

【立候補者】

推薦母体	氏名 (一般)
立候補	佐藤 秀樹 (国際院 H18)

令和6年度 同窓会学生援助事業報告

同窓会学生援助事業では、在学生（準会員）の学会発表、コンテスト・コンクールへの出場、優秀卒業論文、種々の課外活動、学園祭に対して「同窓会研究課外活動奨励賞」および副賞を授与しています。

この事業は、会員の皆様から納入いただいた同窓会費（終身会費・年会費）や入学時に納入いただいた入会金・賛助会費により運営しております。令和6年度の援助総額は3,883,200円でした。ここにご報告させていただきますとともに、厚くお礼申し上げます。

今後とも母校援助にご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事 項	件 数	金 額
学会発表 <参加・出場>	142名	710,000円
学会発表 <入賞>	35名	175,000円
コンテスト・コンクール <出場>	27団体	270,000円
コンテスト・コンクール <入賞>	19団体	95,000円
学会誌・論文誌発表	—	—
優秀卒業論文	8学科	80,000円
課外活動 <学園祭>	2件	200,000円
課外活動 <サークル活動>	20件	1,000,000円
課外活動 <リーダーズトレーニング>	1件	50,000円
キャリアアドバイザー支援	2名	120,000円
卒業・修了証書カバー贈呈	1,650名	1,183,200円
合 計		3,883,200円

※詳細については、同窓会ホームページ(<https://tuat-dousoukai.org/student/>)をご覧ください

＝令和6年度「同窓会学生援助事業 研究課外活動奨励賞」受賞者のコメント＝

森原 大智さん 連合農学研究科 応用生命科学専攻 1年

この度は同窓会の学生援助事業において奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。私は「第254回生理学東京談話会」において、「三叉神経系嗅覚刺激による脳局所血流反応および加齢変化の解析」という演題で口頭発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。アルツハイマー型認知症の初期症状として嗅覚障害が知られています。我々の研究室では、認知機能、嗅覚機能低下の関わりについて脳血流に着目した研究を行っています。今回受賞した研究は、三叉神経系嗅覚刺激による脳血流反応を加齢変化も含めて解析したという内容です。

今後はメカニズムの追求や発展的な研究をしたいと思っています。この場をお借りしまして、研究指導および助言を賜りました東京都健康長寿医療センター研究所自律神経機能部門の内田さえ先生をはじめ、同研究室の先生方に深く感謝申し上げます。

今後も更なる発展を目指し研究活動に取り組みたいと思っています。



今井 翔月さん 工学府 生命工学専攻 1年

2024年9月、東京で開催された第76回生物工学会大会において、学部4年生として「抗CLIC1モノクローナル抗体のがん細胞に対する浸潤抑制効果」を発表し、発表賞を頂く機会に恵まれました。本研究は、膜タンパク質CLIC1を標的とする抗体が腫瘍細胞の浸潤を有意に低減させることを示し、がん転移抑制への新たな道を示唆しています。

振り返れば、学部一年次に仲間と立ち上げた研究サークルでの文献輪読や活発な議論、研究室で繰り返した試行錯誤が今回の成果を支えてくれました。議論を通じて得た視点や、失敗の連続のなかで磨かれた実験技術が、データの信頼性を高め、発表の質を底上げしてくれたと実感しています。

受賞の報せは背筋が伸びる思いでしたが、これで満足せず、抗体改良や薬物複合化など次の課題に挑戦し続けます。がんの転移を制御する治療戦略を実用化へ近づけるべく、今後も粘り強く研究を進め、同窓の皆さまに良い報告ができるよう励みます。



お知らせ

学生援助事業（後期）募集：令和7年11月14日～令和8年1月20日（HPでご案内します）。

援助対象 令和7年度内に実施、又は実施予定の（1）～（3）が対象となります。

- （1）学会発表（年度1回 後期で募集）
- （2）研究あるいは技術開発等のコンテスト・コンクール出場等（年度1回 後期で募集）
- （3）学会誌・論文誌発表等の援助（年度2回 前期、後期で募集）

応募資格（会費納入）・**応募方法**は同窓会ホームページ<学生援助事業>をご覧ください。

第67回農工祭 農学部学園祭

府中キャンパス

2025年11月14日金～16日日 開催予定！ 詳しくは

東京農工大学 農工祭 検索

工学部学園祭「梟旗祭」は毎年5月の開催となります。

部会・支部・同好会・クラス会だより

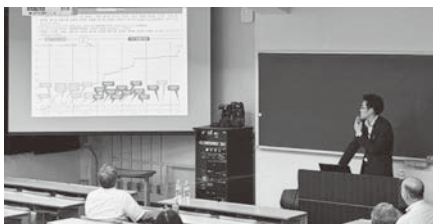
部会・支部・同好会・クラス会だよりの最新情報は、同窓会ホームページ（HP）に随時掲載しております。誌面の都合上、実施事項の詳細等は、同窓会ホームページに全文掲載しております。

部会だより



ご所属の部会は、卒業（修了）時の学科に基づいております。HP「部会・支部総会日程」の下「部会一覧表」を参照下さい。

獣医学部会



日 時 令和6年7月6日（土）
開 催 場 所 農学部2号館1階11番教室
本 部 派 遣 金田 正弘（H12）
参 加 人 数 29名
実 施 事 項 部会総会・懇親会
報 告 者 金田 正弘（H12）

<幹事のコメント>

獣医学部会では毎年総会を行っており、昨年度から対面開催が再開された。また、総会に続いて行っている研究講演会では3人の先生方から家畜衛生に関するご講演をいただき、HPを通して会員限定のコンテンツとして録画配信を行った。本年度は懇親会も再開し、活発な議論と共にOB間の親睦を深めることができた。今後とも様々な試みを通して、同窓会活動の活性化を行っていきたいと考えている。

生産環境工学部会



日 時 令和6年9月7日（土）
開 催 場 所 東京農工大学50周年記念ホール
（オンラインを併用したハイブリッド開催）
本 部 派 遣 戸田 浩人 先生
参 加 人 数 28名
実 施 事 項 部会総会・講演会・懇親会
報 告 者 帖佐 直（農工H4）

<幹事のコメント>

総会では、会務報告に続き次期部会役員候補者案を諮り満場一致で次期役員が決まりました。また次期代議員の候補者案も認められました。今後の部会の運営についてWEBを活用した総会・懇親会などのイベントの周知、クラス会の開催情報の共有などについて意見交換しました。

講演会は同窓会理事長の戸田浩人教授を講師に招き、「大学・同窓会の現状とこれから」についてご講演頂きました。

懇親会には23名参加があり、久しぶりの再会にお互いの健勝を喜び合う会となりました。

農芸化学・応用生命化学部会



日 時 令和6年11月23日（土）
開 催 場 所 2号館11号教室（総会）
50周年記念ホール（懇親会）
本 部 派 遣 岡田 洋平 先生
参 加 人 数 27名（部会総会）、31名（懇親会）
実 施 事 項 部会総会・懇親会
報 告 者 田中 智章（農化S60）

<幹事のコメント>

2019年以来、コロナ禍のため中止していた部会総会を5年ぶりに対面で開催しました。総会では最初に、部会員である千葉一裕学長より、大学の現状、目指す姿などについて熱く語っていただき、質疑応答も盛り上がりました。続いて、会計監査報告、次年度の役員人事案を報告し、出席者の承認をいただきました。さらに、会員のご逝去、教員の人事などの報告と黙祷を行なった後、懇親会に移行し、昭和、平成、令和の三世代の卒業生が和やかに交流することができました。来年も何らかの行事を開催したいと考えています。

林学部会



日 時 令和6年12月1日（日）
開 催 場 所 50周年記念ホール
参 加 人 数 総会29名・特別講演会32名
実 施 事 項 部会総会・特別講演会
報 告 者 戸田 浩人（林学S59）

<幹事のコメント>

開会の辞にひきつづき、本山芳裕（林学S48）部会長のご挨拶があった。恒例により部会長を議長とし、活動報告、会計・監査報告、新役員の選出（案）、部会の変遷と林学部会の在り方、今後のメールを使った連絡体制、次期活動計画（案）などが審議され、閉会后、近藤豊（林学S58）新部会長のご挨拶があった。総会后に、平原俊助教（地生H23）より、特別講演「自然資源管理における市民参加のこれまでとこれから」を実施し、現役の大学院生も参加した。

支部だより



多くの支部で総会を開催しています。開催日程等はHPに掲載しております。HP：ホーム「部会・支部活動」＞「部会・支部総会日程」

北海道支部



日 時 令和6年12月1日(日)
開 催 場 所 ネストホテル札幌駅前(WEB形式併用)
本 部 派 遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
参 加 人 数 23名(うち、WEB参加6名)
実 施 事 項 支部総会・意見交換
報 告 者 本間 聡(地生H20)

<幹事のコメント>

総会では、事業報告や次年度の計画案が了承された後、支部役員の改選について承諾を得ました。来賓の池谷様からは、母校の近況について、創基150周年記念動画とともにご紹介いただきました。

その後、WEB参加者も交えて、今後の支部活動活性化に向けた意見交換を行いました。今回は、近年卒業した3名の若手同窓生にも参加いただき、同窓会へのイメージや、どのような活動を展開すれば参加しやすいかといった観点から、様々な世代の同窓生で活発な議論が交わされました。

青森県支部



日 時 令和6年11月16日(土)
開 催 場 所 海坊厨(青森市)
参 加 人 数 9名
実 施 事 項 支部総会・親睦会
報 告 者 楠美 祥行(電子S58)

<幹事のコメント>

掲載の許諾を頂いた会員名を取りまとめた平成6年度版の支部会員名簿を配布し、同窓の交流を深めるためのきっかけづくりといたしました。

また、懇親会では、各会員がお互いの学生生活の思い出を語り合い、また、社会人となってからの活躍や近況についてもお話が弾み、大変和やかな会となりました。

岩手県支部



日 時 令和7年1月18日(土)
開 催 場 所 ホテルロイヤル盛岡(総会・講演会)
菜園マイクロブルフリー with Kitchen(懇親会)
参 加 人 数 22名(広報大使・他県支部からの参加者を含む)
実 施 事 項 支部総会・ミニ落語会・懇親会
報 告 者 小澤 結(環資H11)

<幹事のコメント>

今回は、農工大広報大使である落語家の立川小春志師匠(応生H17)をお招きし、ミニ落語会を開催しました。支部としては初の試みでしたが、参加者には大変好評でした。昨年に引き続き鳥田洋

宮城県支部



日 時 令和6年7月20日(土)
開 催 場 所 ホテル白萩(宮城県仙台市)
本 部 派 遣 赤井 伸行 先生
参 加 人 数 15名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 大類 清和(林学H2)

<幹事のコメント>

当日支部長が急遽欠席となり、副支部長が議長を代行しなければならなくなるハプニングもありましたが、無事各議案が承認されました。また、5年ぶりに派遣いただいた先生から大学の近況等について御紹介いただき、改めて母校に思いを馳せる機会となりました。さらに、今回、会員の高校生になるご息女が参加し、将来の進路について農工大の先輩方からアドバイスを受ける機会ともなり、久しぶりに参加の会員とともに世代を超えた交流が活発に行われた賑やかな会となりました。

山形県支部



日 時 令和6年11月2日(土)
開 催 場 所 ヤマコーホール(山形市)
本 部 派 遣 大川 泰一郎 先生
参 加 人 数 27名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 川崎 聡明(生産H9)

<幹事のコメント>

コロナ禍の影響で令和元年以来、5年ぶりの開催となりました。

議事終了後は、大川泰一郎教授から大学及び同窓会の近況についてお話いただき、農工大の先進的な研究体制や経営的自立に向けた取り組み等についても解説いただきました。

また、山形県産品をネット販売する「まるごと山形」を運営する寺島千絵子さん(材料H12)からは、「やまがたらしさを軸としたネット販売」と題して、取り扱う山形県産品や旬の食材へのこだわり、全国の方に山形のすばらしさを届けたいという熱い想いを発表していただきました。

懇親会では、全員に自己紹介頂き、会員間の交流を楽しみました。大川教授も農工大の同級生や寮生、教え子と語らい、最後に駒場小唄を合唱したり、大いに盛り上がりました。

福島県支部



日 時 令和6年7月13日(土)
開 催 場 所 グランパークホテルエクセル福島恵比寿
本 部 派 遣 水川 薫子 先生
参 加 人 数 28名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 横山 健(国際院H22)

<幹事のコメント>

総会では、令和5年度事業報告並びに令和6年度事業計画が満場一致で了承されました。役員改選については、目黒友（蚕糸S53）を支部長とする新たな体制を承認いただきました。

総会終了後は、恒例の懇親会を開催。久々に同窓の皆様で顔を合わせることができ、大変盛り上がりました。

茨城県
支部

日 時 令和6年11月9日（土）
開催場所 レイクビュー水戸
本部派遣 赤井 伸行 先生
参加人数 25名
実施事項 支部総会・懇親会
幹事・報告者 磯邊 晋吾（林学S62）

<幹事のコメント>

赤井先生から母校の近況を交えたご祝辞をいただいた後、支部総会においては、事業経過報告・収支決算及び支部役員の改選について承認をいただきました。

前回の総会と同数の参加人数となりましたが、参加者の顔ぶれが入れ替わり、大学時代の思い出話に盛り上がる光景が見られました。

今回は、令和8年秋期に開催予定です。農工両学部から、特に若い同窓生の御参加をお待ちしております。

栃木県
支部

日 時 令和6年12月8日（日）
開催場所 ホテルマイステイズ宇都宮
本部派遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
参加人数 12名
実施事項 支部総会・懇親会
報告者 篠崎 敦（生産・H18）

<幹事のコメント>

総会後、来賓の池谷様より母校の近況を御紹介いただきました。また、懇親会においては、世代を超えた会員間の交流が行われました。皆さまからも一言ずつ近況のご報告をいただき、県内各地でご活躍されていることを再認識させていただきました。

会員の皆さまにおかれましてはご自愛いただきますとともに、改めて、栃木県支部活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

群馬県
支部

日 時 令和6年11月3日（日）
開催場所 ホテルラシーネ新前橋
本部派遣 野口 恵一 先生
参加人数 29名
実施事項 支部総会・懇親会
報告者 影澤 圭太（林産H3）

<幹事のコメント>

コロナ禍で実施を見送っていた群馬県支部の定期総会を5年ぶりに開催したところ、29名の参加により盛大に実施することが出来ました。総会後の懇親会では、それぞれが楽しい近況報告や、学生時代の苦く楽しい思い出を語って頂き、笑顔溢れる宴会になりました。来年度以降も開催いたしますので、県内の同窓の皆様には是非参加をお願いいたします。夢はGメッセを貸切です。ありがとうございました。

埼玉県
支部

日 時 令和6年10月13日（日）
開催場所 アズーリクラシコ（さいたま市）
参加人数 20名
実施事項 支部総会
報告者 竹詰 一（農学H2）

<幹事のコメント>

総会では、令和5年度事業報告並びに決算報告、令和6年度事業計画並びに予算案、役員の改選について審議され承認されました。

また、支部長から東京農工大学創基150周年などの報告や事務局からは令和7年5月25日に埼玉県秩父ミュージアムパークを主会場に開催する第75全国植樹祭等について報告がありました。

千葉県
支部

日 時 令和6年10月12日（土）
開催場所 ホテルポートプラザちば
本部派遣 本林 隆 先生
参加人数 49名
実施事項 支部総会・懇親会
報告者 津金 胤昭（応生H6）

<幹事のコメント>

千葉県支部総会は6年ぶりに対面での開催となりました。昭和から令和の卒業生まで幅広い世代の49名が出席しました。来賓の本林先生からは大学の近況と将来構想、また現在取り組んでいる研究課題（マコモタケとオニグルミ）について大変興味深いご講演をいただきました。懇親会では久しぶりの再会に盛り上がり、会員同士が交流を深めました。今回は令和8年の開催を予定しています。同窓生のみなさんとの再会を楽しみにしております。

東京都
支部

日 時 令和6年8月31日（土）
開催場所 50周年記念ホール
本部派遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
参加人数 52名（会場出席者24名 WEB出席者28名）
実施事項 支部総会
報告者 栗原 知（林学S47）

<幹事のコメント>

支部総会に先立ち、12,000名近くの方々の東京都支部会員の内、連絡可能な約2,000名近くの方々へ葉書とメールで呼びかけた結果、上記の52名の方々の参加となった。

初のリモート併用の支部総会であったが、関係者の協力の下、無事に終了した。支部の会則を審議し、翌9月1日施行とした。会議の進め方（準備も含め）に課題は残ったが、これは次回の支部総会の反省材料とする。

神奈川県 支部



日 時 令和6年11月23日（土）
開 催 場 所 ザ・ウィングス海老名
本 部 派 遣 戸田 浩人 先生
参 加 人 数 21名と来賓理事
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 笠木 一行（農工S62）

＜幹事のコメント＞

戸田教授からは、東京農工大学創基150周年のこと、大学の新プロジェクトの話、水源涵養にかかる神奈川県との共同研究の話などいただきました。

懇親会では、同窓生21名全員にマイクが渡り、それぞれの近況報告などをいただきながら、あっという間に時間は過ぎ、終始なごやかに懇親ができました。

新潟県 支部



日 時 令和6年7月20日（土）
開 催 場 所 富来屋（新潟市）
本 部 派 遣 野口 恵一 先生
参 加 人 数 10名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 村山 康則（農学H3）

＜幹事のコメント＞

定例総会では役員改正等が承認され、総会の後、野口理事より本学の近況を紹介いただき、その活躍ぶりに皆さんご満悦でした。

懇親会では、参加者全員の近況報告など世代を超えて大学時代の思い出話で大いに盛り上がり、来年の再会を誓い散会しました。

富山県 支部



日 時 令和7年3月15日（土）
開 催 場 所 日本料理俵屋
本 部 派 遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
参 加 人 数 8名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 飯野 師（地生H18）

＜幹事のコメント＞

本部から派遣頂いた池谷様からは、大学の研究力や多様な人材育成が高く評価されていることや大学卒業後のつながり・交流についての説明をいただき、会員の皆様も興味深く聞いていらっしゃいました。

また、年一回の開催ですが、継続して出席者いただいている会員同士の親睦も深まってきており、何か総会とは別の取組みにもチャレンジしていきたいという意見もでてきております。富山県支部に集う面々で試行錯誤し、より一層発展していくよう会員の皆様と共に努力していきたいと思っております。

静岡県 支部



日 時 令和6年6月29日（土）
開 催 場 所 クーボール会館（静岡市）
本 部 派 遣 野村 義宏 先生
参 加 人 数 35名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 小松 鷹介（地生H23）

＜幹事のコメント＞

長らくお世話になってきた従来の会場が再オープンしたため、実に5年ぶりに慣れ親しんだ会場での開催でした。

同窓会本部の野村教授から大学の近況のお話を頂くとともに、恒例の会員による講演では、百瀬好樹様（応生H7）からゼラチンとコーゲンペプチドについてお話を頂きました。

コロナ5類に移行して1年、少し形も変わりつつも、コロナ前の生活に戻ってきた気がします。

三重県 支部



日 時 令和6年9月8日（日）
開 催 場 所 新玉亭（津市）
本 部 派 遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
参 加 人 数 15名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 西野 実（生産H7）

＜幹事のコメント＞

本年も「新玉亭」にて三重県支部の総会と懇親会を開催しました。同窓会本部から池谷紀夫前事務局長を迎え、大学の近況について報告いただきました。参加人数は15名とほぼ例年並みで、あまり多くはありませんが、近況報告などしながら楽しいひと時を過ごせました。

京都府 支部



日 時 令和6年11月30日（土）
開 催 場 所 京都・京料理「花咲 萬治郎」
本 部 派 遣 加藤 誠 先生
参 加 人 数 17名
実 施 事 項 支部総会・交流会
報 告 者 京都支部長 松井 崇（農工S51）
連絡員 平野 孝志（農工S53）

＜幹事のコメント＞

総会後、加藤誠先生から「大久保利通公の顕彰碑」と題して大久保利通公の熱き想いと農工大への繋がりなどをご講演いただき、我が母校に対する誇りと尊敬の念を改めて深めることとなりました。この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます。

交流会では、5年ぶりの再会を喜ぶとともに新たな参加者を迎え和やかな雰囲気の中で、京都の伝統文化に触れながら大学の話題を肴にまた来年会いましょうを合言葉に楽しく歓談されました。

兵庫県 支部



日 時 令和6年11月16日（土）
開 催 場 所 神戸三宮 東急REIホテル
本 部 派 遣 赤井 伸行 先生
参 加 人 数 21名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 上坂 修一（林産S54）

<幹事のコメント>

出席者は21名うち3名が初参加。プロジェクターを使った赤井先生による大学の近況報告をしていただきました。また、初めてオンライン配信を実施。

今後若い同窓生が参加できるよう、総会とは別にイベントなどの企画も検討して来年はもっと参加者を増やしたいと考えます。

奈良県 支部



日 時 令和6年11月24日（日）
開 催 場 所 梁山泊・本館（奈良市）
本 部 派 遣 大川 泰一郎 先生
参 加 人 数 11名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 連絡員 岩治 新（地生H20）

<幹事のコメント>

前回R4に引き続き2年ぶりに総会を開催することができました。冒頭、山本支部長（電気S54）から、支部の活動や会員数の状況等について説明がありました。また、今回本部から参加いただいた大川副理事長から最近の大学や研究などの近況について共有いただくとともに、支部の活動に鼓舞激励いただきました。懇親会では、近況や今後の会の活動などの話題で大いに盛り上がりました。

鳥取県 支部

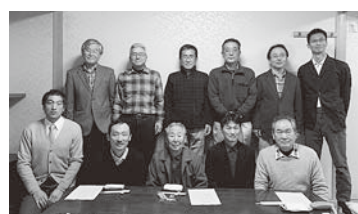


日 時 令和6年12月7日（土）
開 催 場 所 ホテルセントパレス倉吉
本 部 派 遣 村上 尚 先生
参 加 人 数 8名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 坂東 悟（農S61）

<幹事のコメント>

県内各地に居住する会員が1年ぶりに県中部に位置する倉吉に集まり、和気あいあいとした楽しい時間を過ごしました。村上先生から母校の様子をお聞きし、挑戦し変化する姿に勇気づけられました。会員の中から「みんなで母校へ行ってみたいけんな〜」といった発言もあり、個人的には同意しながらも幹事として「ドキッ」とするものがありました。次回に向け、より多くの出席者を迎えられるよう、盛り上げていきたいと思っています。

島根県 支部



日 時 令和6年12月14日（土）
開 催 場 所 東京亭（大田市）
参 加 人 数 12名
実 施 事 項 支部総会・祝賀会
報 告 者 中島 敬（農工H4）

<幹事のコメント>

この度、4年ぶり支部総会を開催し、事業報告、次年度の事業計画が承認されました。総会では、次期支部総会に向けて島根県支部会の名簿の更新等について意見がありました。

また、佐田増蔵様（農工S34）が瑞宝双光章を受賞され、併せて祝賀会を開催し、盛大にお祝いを行いました。

次回以降は毎年度開催することを決定し、散会しました。

岡山県 支部



日 時 令和6年8月24日（土）
開 催 場 所 ビュアリティまぎび（岡山市）
本 部 派 遣 水川 薫子 先生
参 加 人 数 17名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 佐野 大樹（生産院H16）

<幹事のコメント>

講演会として、水川薫子先生から「東京農工大学の近況」、元岡山県農業普及指導員で米農家の柴田雅人氏から「2分半で調理できる香り米 なぜか人気急上昇のサリークイーン」と題して、お話をしていただきました。大学の様子や、香り米を炊く実演や試食など楽しくお話をうかがうことができました。懇親会では参加者相互の近況交換等行い、楽しい一時を過ごすことができました。

岡山県支部の皆様、総会は例年8月を目安に計画し、決まり次第ご案内させていただきますので、ご参加を心からお待ちしております。

広島県 支部



日 時 令和6年4月7日（日）
開 催 場 所 ホテルメルパルク広島
本 部 派 遣 大倉 茂 先生
参 加 人 数 20名（本部派遣含む）
実 施 事 項 支部総会・懇親会
幹事・報告者 石田 一之（機械S59）

<幹事のコメント>

コロナの影響で昨年5月に延期開催した支部総会を徐々に年度末の3月開催に戻すべく、今年は4月に支部総会を計画。メール案内、Facebook掲載等効果で昨年と同じ20名が参加。総会では本部理事を兼任されている三宅支部長からの近況報告。懇親会前には全員で

握手しながら顔と名前を記憶。懇親会では全員自己紹介と楽しい近況報告で歓談。来賓大倉先生も広島出身という事で大盛り上がり。記念撮影後、「広島県支部の発展と出席者の健康を祈念して」一本締めを行い楽しい同窓会を終了。

山口県支部



日 時 令和6年8月4日(日)
開 催 場 所 山口グランドホテル(山口市)
本 部 派 遣 赤井 伸行 先生
参 加 人 数 9名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 岡本 賢一(植防H4)

<幹事のコメント>

総会ではまず「大学の近況と低温場における分子科学」と題して赤井先生によるミニ講演会が行われました。「東京農工大学創基150周年記念事業」の様々な取組や、赤井先生が取り組んでおられる「極低温貴ガスマトリックス単離法」について、わかりやすく説明していただきました。

懇親会では昔話に花が咲き、大いに盛り上がりました。講演を引き受けてくださった赤井先生をはじめ、集まった支部会員の方にも満足していただけたと思います。

老若男女を問わず楽しめるのが当支部です。山口県出身者・在住者の積極的な参加をお待ちしています。

徳島県支部



日 時 令和6年9月7日(土)
開 催 場 所 花菜(徳島市)
本 部 派 遣 桑原 利彦 先生
参 加 人 数 4名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 小杉 純一郎(林学S63)

<幹事のコメント>

今年は本部から桑原利彦先生にご参加いただき、府中キャンパスに食・エネルギー関連の施設が新たにつくられたり、工学部の女子学生比率が全国一になったりと、大学が変化し続けていることを伺い、卒業後の歳月の流れにあらためて感慨を覚えました。

また、現役学生の支援のために、令和3年度に続き、当支部から東京農工大学基金に10万円を寄付することを決定しました。

皆さんのおかげで楽しく有意義な同窓会になりました！

愛媛県支部



日 時 令和7年2月22日(土)
開 催 場 所 えひめ共済会館
本 部 派 遣 池谷 紀夫 同窓会事務局員
参 加 人 数 15名
実 施 事 項 支部総会・懇親会
報 告 者 田中 美奈(植防S61)

<幹事のコメント>

コロナ禍を経て、6年5か月振りに総会を開催することができました。今回は、常連に加え、初めての参加者を多数お迎えすることができました。俳句の街「松山」らしく参加者の交流を図ろうと、新しい試みとして、懇親会で「句会ライブ」を開き、上級者も初心者も、それぞれが1句を絞り出しました。日常を温かい目で描写した句では感嘆の声、そして農工大(榎寮)の日々をユーモラスに語った句では爆笑が起きるなど、楽しい時間を過ごしました。

高知県支部



日 時 令和6年10月26日(土)
開 催 場 所 高知会館
本 部 派 遣 野村 義宏 先生
参 加 人 数 12名、委任状32名
実 施 事 項 支部総会、講演会、懇親会
報 告 者 豊田 陽一(蚕糸S57)

<幹事のコメント>

今回、コロナ禍を経て5年ぶりの総会開催となりました。本部からは野村先生に来ていただき、農工大創基150年の行事等についてご報告いただきました。その後行った講演会は、「防災植物を知ろう」(いざというときに身近で食べられる野草の話)という内容で、身近な植物で食べられるものが多いことを知りました(ただし、有毒植物もあることも)。懇親会では、講演会に関する話や大学の時の話などに花が咲き、楽しいひとときとなりました。

長崎県支部

日 時 当初実施案：案内送付・令和6年6月20日、
開催予定・7月27日(土)
書面変更後：議案送付・7月25日速達便、
回答期限・8月2日投函
開 催 場 所 長崎市内集合⇒書面決議方式に変更
参 加 人 数 当初案内送付会員67名=
返信:出席16名、委任24名、保留2名
書面決議送付会員15名(出席予定)=
回答:賛成14名、保留1名
実 施 事 項 支部総会(書面決議)
報 告 者 植村 直己(生産H7)

<幹事のコメント>

昨年は新型コロナ感染者の減少・安定化により、4年ぶりに集合総会を開催し、今年度も同様に集合総会をバリ五輪に合わせて！案内したところ、開催間近に参加予定会員のコロナ感染等、新型コロナ感染の再拡大が発生し、集合総会を回避すべき事態となりました。その結果、令和3年度の書面決議方式総会を参考に、総会出席予定者による書面審議による総会決議を行いました。

熊本県支部



日 時 令和6年7月27日(土)
 開催場所 アークホテル熊本城前
 本部派遣 野口 恵一 先生
 参加人数 24名
 実施事項 支部総会・懇親会
 報告者 上野 周子(植防S61)

<幹事のコメント>

今年度の支部総会は、新型コロナウイルス感染症の第11波が広がる中2～3名の直前キャンセルがありましたが、野口先生を含め、24名の参加を得て実施することができました。野口先生からの大学の現状を聞き、懇親の中では各自自己紹介や近況、大学時の思い出を報告していただき、懐かしい思い出も共有することができました。年配者が多い熊本県支部ですが、次年度も元気で集うことができるよう祈っています。

大分県支部



日 時 令和6年11月23日(土)
 開催場所 ホルトガーデン(大分市)
 参加人数 15名
 実施事項 支部総会・懇親会
 報告者 池上 哲生(農学H4)

<幹事のコメント>

- ・近況情報が掴める会員については、欠席する旨の報告があった会員への総会報告に近況報告を同封する形で共有することとした。
- ・支部の総会時期が例年遅く、本部と支部で役員がズレている実態を是正するため、再来年度の支部総会は次期の本部代議員候補者提出期限前までに開催することとなった。
- ・逝去した会員の情報が把握しづらいため、各会員が情報をつかんだ場合は事務局までご報告していただくことを再度確認した。

宮崎県支部



日 時 令和6年10月5日(土)
 開催場所 ホテルニューウェルシティ宮崎
 本部派遣 田中 知己 先生
 参加人数 12名
 実施事項 支部総会・懇親会
 報告者 川越 研太(機械シスH23)

<幹事のコメント>

事業報告・収支決算を承認したのち、田中先生から母校の近況を交えた祝辞をいただきました。昨年度、新規入会した黒岩さんが田中先生の研究室出身ということもあり、和気藹々とした時間を楽しみました。

今年度は、総会案内状にLINEグループのQRコードを貼って案内したところ、県外で就職している会員からの情報も複数届きました。

来年度は県南地区での開催をとの意見もあり、工夫をしながらさらに盛り上げていきたいと考えています。

鹿児島県支部



日 時 令和6年11月23日(土)
 開催場所 ホテルタイセイアネックス
 本部派遣 桑原 利彦 先生
 参加人数 14名
 実施事項 支部総会・交流会
 報告者 長谷川 信幸(製糸S54)

<幹事のコメント>

総会では、平支部長から先日行われた支部長会議の報告、寄稿の呼びかけがあった後、本部理事の桑原先生が母校の近況を紹介、特に世界第一線の研究を目指していることや女性OGの活躍に感動させられました。

その後、前年度の実績、6年度の計画、予算などを協議し、喜寿を迎えた会員(平氏)への記念品贈呈を行いました。

さらに交流会では冬らしくなってきた寒さと旧交を焼酎で温め、次年度の再会を願って会を閉じました。

横浜会



日 時 令和6年7月13日(土)
 開催場所 華正楼新館(横浜市)
 参加人数 6名
 実施事項 支部総会
 報告者 松島 稔(製糸S37)

<幹事のコメント>

会長より「2024年7月13日を以て当会を解散したい」との提案があり会員全員の賛成により歴史ある横浜会の解散が議決された。往時、当会は東京高等蚕糸学校、東京繊維専門学校及び東京農工大学の主として蚕糸関係の卒業生により構成されており、外貨不足の中、日本の戦後復興とシルク産業の隆盛に貢献した。

同好会だより



地域再生・地域活性化に東京農工大学の知的資源を活かすネットワーク



【Ⅰ】講演会&交流会の開催

- (1) 日時：令和6年4月13日（土）
- (2) 会場：東京農工大学本部50周年記念ホール
- (3) 講師：三浦慎悟氏（林学S46、理学博士、早大名誉教授）
- (4) 演題：日本における野生動物管理の源流、種の認識史と生物多様性保全

「私たちは資本主義の呪縛から解放され、経済のあり方により自由でなければならない。持続可能な社会とは、生物多様性の歴史性や連続性を確保し、生物間の相互作用や循環を保全し、環境との一体性を保証する経済の仕組みを作ることにはかならない。」というまとめの一文に大きな示唆を与えていただきました。

*当日は会場に13名、オンラインで4名が参加しました。

【Ⅱ】「風の記録」第2版の編集の取り組み

会員の回顧録「風の記録」第2版を次年度内に刊行する運びになった。

報告者 淵野 雄二郎（農学S43）

農工音楽祭



令和6年11月9日（土）学園祭期間中に歌研究会のステージを借りし、生協食堂にて第11回農工音楽祭を開催した。機材は歌研究会のお世話になり、歌研究会のサポートなしには開催できず、深謝している。教職員バンド（ちーむクロ）が昭和歌謡を演奏し、学生も多数聴きにきてくれ、大変盛り上がった。学園祭期間中だったので一般の方の視聴も多数あった。

報告者 佐藤 俊幸（共同獣医学科・教授）

東京農工大学技術士会



- ①令和6年4月6日大学技術士会連絡協議会 総会②4月29日幹事会ミーティング③7月28日例会、21名参加 講演2件：森山様、東田様④11月30日「東京農工大学創基150周年記念懇親会（東京都支部主催）」松井さんと参加。農工大学技術士会のアピール実施。⑤12月4日幹事会、東京駅近辺にて開催。総会関係 ⑥令和7年1月25日総会・懇親会。21名参加。50周年記念ホールにて開催。講演2件、外部講師 伊藤真一郎様

報告者 吉原 伊知郎（化工S51）

農工大同窓会イノベーション研究会

講演会&農学部施設見学会

～アニマルウェルフェアと農工融合研究～

日時：令和6年10月12日（土）

講演1「アニマルウェルフェアとアニマルコンピューターインタラクション」講師：新村 毅 氏（農学研究科教授）

講演2「AIを用いた家畜および野生動物の行動センシング」

講師：藤波 香織 氏（工学研究院教授）

農学部施設見学会

本講演では、アニマルウェルフェアとは何か？という定義から始まり、動物との“会話”を実現するための農学部工学部融合研究「アニマルコンピューターインタラクション」更には、急速に発展するAIを動物行動センシングに用いた最新研究を紹介しました。2025年は農学部に出発した「西東京国際イノベーション共創拠点」邂逅館（かいこうかん）の見学会&講演会を行います。

報告者 菅野 茂樹（織工S49）

馬術部後援会



令和6年1月には馬術部馬場にて初乗り会を、3月には大國魂神社で馬術部追いコンを実施し、OB・OGと学生交流を進めております。2024年度の送別会は、令和5（2023）年度全日本学生馬術大会・総合馬術競技での60年ぶりの団体準優勝・個人第4位入賞の祝賀会、およびJRA小椋山悟調教師の引退記念会を兼ね、60名の参加者が集まり開催しました。加えて馬術部は昨年12月に府中市民スポーツ優秀賞、本年3月に東京農工大学学長賞を受賞いたしました。また、2024年6月の関東学生馬術競技大会では総合馬術団体5位、11月の全日本学生では総合馬術団体3位となり昨年に引き続き入賞の快挙を達成しました。

報告者 黒田 泰輔（獣医H17）

東京農工大学ワンダーフォーゲル部OBOG会



<主な活動>

2024年8月11～12日：OBOG会1985卒メンバーで、現役学生の錬成合宿（新潟・平標山）に顔出し、山頂で差し入れ（冷やしバナナ、プロテインバー、アミノバイタル）、山頂周辺はガスがかかっていましたが、現役パーティも全員元気で会えたので何よりでした。

2024年11月9日：農工大・記念林ハイキング&学園祭に行ってきました。学園祭の後、「桃の湯」で入浴、懐かしの国分寺の居酒屋「惹凱社」へ。

2025年3月8日（写真）：高尾の梅郷で観梅&ハイキング。同窓会記念林・小仏城山～高尾山経由で下山。麓の高橋屋の蕎麦を堪能。夜はまた、「惹凱社」へ。

2025年5月4日：現役の奥多摩・新歓合宿に顔出し予定。

報告者 OBOG会長 安藤 隆生（林学S58）

農工大軽音学部OB会



2024年7月27日 軽音学部OB会オリンピックライブ 国立「はっばん」にてライブを行い。その時の映像を、YouTubeにアップしました。・フォークバンド演奏・ジャズバンド演奏・ナターシャバンド演奏

また、2024年8月号の農工通信をお読みにになったU. FさんとM. Kさんからご連絡を頂きOB会に入って頂く事になりました。

学生の頃バンド活動をやっていて、ブランクがありましたが、OB会発足の記事を見て、懐かしくて連絡したと言っていました。

OB会の発足を機に、OB＆OGの皆様との音楽を通した輪を広げていきたいと思っています。今後、コンサートやイベント等を企画出来ればと思っていますので、皆様からのご連絡をお待ちしています。

報告者 菅野 茂樹（織工S49）

風早会（東京農工大学学友会ヨット部OBOG会）



農工大同窓の皆様、こんにちは！

私が大学在学中、青春の1ページを飾ったヨット部は今年で創部58年を迎え、OBOG会員は150名を超えます。今でも定期的にOBOG老若男女のセーラー交流会・活動を続けております。以下は昨年の交流実績です。

さて、現在のヨット部は現役部員12名、神奈川県の下ノ島を拠点に活動を続け、昨年2024年はなんと全日本と名の付く大会への出場を果たしました。

- ・全日本女子選手権大会 in 葉山
- ・全日本スナイプ選手権大会 in 境港（鳥取県）

そして、今年2025年は創部以来の悲願、史上初となる全日本学生ヨット選手権大会（学生最高峰の大会）に手が届くところまで強く遅しく成長しています。

ちなみに、全日本大会は、北は北海道大から東京6大学、名古屋大、同志社大、広島大、九州大など名立たる学校が集まり、熱いバトルが繰り広げられます。もしかしたら皆様の同僚や知人の方にも大学ヨット部出身者が居るかもしれませんね（笑）。

それはさて置き、現部員も農工大生らしく寡黙に海、ヨットに真摯に向き合っている後輩たちを皆様にもぜひ応援していただきたいと思います。

今回の寄稿およびヨット部に少しでもご興味を持たれた方、ご連絡いただけますと幸いです。

連絡先：kazahaya-kai_officer@googlegroups.com

ヨット部Instagram：tuat_yachtで検索。

報告者 ヨット部監督 田中 敏和（機シスH8）

クラス会だより



クラス会やOB・OG会開催のため、会員名簿が必要な方は同窓会ホームページ「入会・会員情報」の「会員情報提供について」をご参照いただき、同窓会事務局宛てにご依頼ください。クラス会開催後は、是非ご報告ください。農工通信と同窓会ホームページに掲載させていただきます。

心を紡いだクラス会



日 時 令和6年6月8日（土）

開催場所 新橋亭

クラス（卒年） 製糸S54

参加人数 16名

報告者 小窪 信行（製糸S54）

<報告者コメント>

集合場所の新橋駅前SL広場に次々と旧友が到着するたびに、歓声があがり会が始まる前から盛り上がりを見せていました。6年振りのクラス会、中には卒業以来45年振りに参加する懐かしい顔も含め16名の集いとなりました。一人ひとりの近況報告等を終え、最後に熱く語ってくれたIさんの3つの「キ」…「元気」「根気」「感激」を持ち続けようとの話に皆が感動させられました。あつと言う間に3時間が過ぎ、2次会を経て話は尽きませんでした。次回の再会を誓い合い夜の駐車場をあとにしました。製糸学科の心を紡いだ1日となりました。

農工大機械81会クラス会



日 時 令和6年6月29日（土）30日（日）

開催場所 群馬県 伊香保温泉 千明仁泉亭

クラス（卒年） 機械S56

参加人数 14名

報告者 阿部 典之（機械S56）

<報告者コメント>

コロナが明けて久々の開催でした。年齢的に定年の時期で会社を退職するなどの変化がありましたが、卒業以来初めて会う方も含め、懐かしい面々が集まりました。皆さん学生の時と変わらず懐かしい話に盛り上がり、温泉、宴会、二次会カラオケを楽しみました。

今後もクラス会や、東京でのプチクラス会で会おうとして散会しました。※前列左より 小山内、玉木、石田、大野、増田、中列左より 山崎尚之、山崎学、後列左より 阿部、表、稲垣、山本、砂原、田巻、辻田

S59農業工学科卒 同窓会 in 上野・大阪



日 時 令和6年7月31日(水)・8月17日(土)
 開催場所 上野、大阪難波
 クラス(卒年) 農工S59
 参加人数 6名、4名
 実施事項 飲み会
 幹事・報告者 三島、大丸・大丸

<報告者コメント>

- 1) 2024年7月31日、秋田勤務の佐藤君が上京した日に合わせ、東京・千葉近辺の5名が集結しました。写真の右から、佐藤、小林、久野、大丸、奥村、三島の6名。
- 2) 今回の幹事兼報告者である大丸が、お盆休み中関西に行った機会に、関西地域に住む同期を集めて楽しく飲みました。写真の右から、黒川(旧姓山田)、山本、モハマド・ホセイン・シャジャリ、大丸の4名。

第5回昭和53年農業生産工学科同窓会の報告



日 時 令和6年8月3日(土)～8月5日(月)
 開催場所 函館、青森
 クラス(卒年) 農工S53
 参加人数 11名
 幹事・報告者 佐藤 友康(函館)、中村 弘(青森)・浜口 憲一郎

<報告者コメント>

2023年12月の同窓会で企画された2泊3日の函館夜景観光とねぶた祭り、幹事の友康と弘の手配が素晴らしく、全員が満喫した旅行となりました。参加者は3日の午後、函館のホテルに各地から集合し(前日ゴルフの後合流組や前泊して朝、函館山を縦走する強者も)、夜に函館山の山頂に上がり、貸切りの特別室で函館の夜景を堪能。4日は五稜郭などを見学後、新幹線で青森へ移動。三内丸山遺跡を見学し、ねぶた祭りへ。最前列の観覧席で青森ねぶたと跳人の迫力に圧倒され、夜は弘の40畳の部屋で川の字で真夏にクーラーなしで熟睡。5日は弘のバイオチップ工場の見学の後、来年も同窓会旅行と盛り上がったの散会となりました。

農化47期第4ステージを楽しむ会



日 時 令和6年9月18日(水)
 開催場所 東京駅 七代目卯兵衛
 クラス 農化S47
 参加人数 14名
 幹事 久米 賢次(農化S47)

<幹事のコメント>

後期高齢者の声を聞く年齢になったので久しぶりに同期会を開催することにしました。14名が参加してくれました。今回、事務局が学生時代に青焼きコピー担当で皆の試験対策に貢献した受講ノートの原本を発見持参したため、50年綺麗なまま保存された青焼きの防虫性に感動。参加者は互いにそれなりの人生を歩み学生時代・社会人・定年までを過ごし、これからの後期高齢者後の第4ステージを健康で楽しく過ごす指針(山岳会・花・地域貢献ボランティア等)を共有していました。

昭和61年度林学科同期会



日 時 令和6年9月21日(土)～23日(月)
 開催場所 高知県・岡山県
 クラス(卒年) 林学S61
 参加人数 7名
 幹事・報告者 木村 洋(林学S61)

<幹事のコメント>

今回は、高知、岡山と周りながら岡山にて全員がそろい会うことができました。
 岡山の閑谷(しずたに)学校を観光した後、岡山市内にて盛大な宴会となりました。
 今回は、職場環境も変わった方も多く色々な話を聞いたことは感慨深い物がありました。
 毎回思いますが、話しているとついこの間まで研究室で勉強?していた様な気になりました。また、元気で会えることを願って散会いたしました。

工学部 数理情報工学科 2期生同窓会



日 時 令和6年9月28日(土)
 開催場所 ホテルリステル新宿
 クラス(卒年) 数情S56
 参加人数 20名
 報告者 五十嵐 智、林 努、藤村 琢司、志村 隆則

<報告者コメント>

コロナ禍もあり、6年ぶりの同窓会です。前回は60代前半、今回は60代後半(高齢者の仲間入り)になり、容姿も変わりましたが、気持ちは学生時代のままで、一次会と二次会で約5時間近況を語り合いました。現役で仕事を続ける人、趣味やボランティア活動、スポーツクラブで体力維持に打ち込んでいる人、家事分担や家族との生活を優先している人、高齢者施設への入居を検討中の人、いろいろな考え方を共有できました。同窓会を継続するために、今回都合の悪かった人を優先した日程調整、開催間隔、幹事持ち回り、連絡網のLINE化等いろいろな提案があり、次回開催を楽しみに散会となりました。

昭和38年卒 農学科・農業工学専修クラス会



日 時 令和6年10月2日(水)
 開催場所 農工大50周年記念ホール
 クラス(卒年) 農学・農工S38
 参加人数 8名
 報告者 小泉 銘册・稲葉 次郎

<報告者コメント>

6年ぶりの開催。みな、年相応に老けてはきたが、気力は充実。今回は同窓会事務局の紹介で本学の前事務局長、農学科の後輩でもある池谷氏にキャンパス案内をお願いした。60余年前に青春を過ごした名残を探して散策。その後の改革や発展の息吹を感じ、さらに天を衝くケヤキ並木、随所に残る大木に感動。学生の多さ、とくに女子学生と留学生が目立つキャンパスに隔世の感を抱く。記念ホールでの一次会、近くの寿司屋での二次会と、時を忘れ、それぞれの歴史を語りあう5時間でした。誰ともなく、また集まろうとの声、来年10月2日の再会を期して家路についた。

“若き日の熱き想いが蘇るケヤキ並木と友の集いに”

志緑会（農業生産工学科S46入学）同期会

日 時 令和6年10月25日（金）～26日（土）
 開催場所 宮崎県宮崎市
 クラス（卒年） 農工S46入学
 参加人数 11名
 実施事項 ゴルフ、懇親会、宮崎市内散策
 報告者 馬場 一秋（農工S50）

<報告者コメント>

今年は宮崎県在住の野中清明君の幹事で宮崎市で開催。先発4名は懇親会の前に名門PHOENIX COUNTRY CLUBでプレー。左右に迫る林や深いバンカーと、毎年プロのトーナメントで使用するコースの厳しい「おもてなし」を受けました。スコアはともかくプレーは各自満足。

懇親会は野中君経営の居酒屋「ゆにわ」にて。新鮮な魚介や宮崎名物チキン南蛮、他では味わえない創作料理を堪能しました。翌日は市内観光で最初は青島神社。2月にはプロ野球G球団が必勝祈願に訪れるシーンが放映されますが、ここだったかとファンは感動。絵馬も公開されていてエースS投手の目標は15勝。見事ピタリ達成でした。次いで鶴戸神社へ。青島もそうでしたが、海辺の絶景、奇岩と神社の建物に圧倒されました。磯料理の昼食の後、次回関西での再会を決定し散会しました。

農業生産工学科56年卒同窓会

日 時 令和6年10月26日（土）
 開催場所 50周年記念ホール
 クラス（卒年） 農工S56
 参加人数 16名
 報告者 大河内 宏美（農工S56）

<報告者コメント>

“元気うちに会いたいね！”。こんな声が集まって50周年記念ホールで39年ぶりの同窓会が開かれました。北海道から鹿児島までの16名が参集、高齢者枠に入った容姿の変化もなんのその、大学時代へタイムスリップしたようで大いに盛り上がりました。参加できなかった面々の近況も幹事から伝えられ、懐かしさもひとしお、楽しいひと時を過ごすことができました。

次回は、九州組が幹事となり開催予定。元気な再会を期待しています。

昭和55年卒、林産学科同窓会

日 時 令和6年10月31日（木）
 開催場所 府中市
 クラス 林産S55
 参加人数 14名
 報告者 塩原（柴田）知佳子（林産S55）

<幹事のコメント>

毎年、紅葉の頃に開催される昭和55年林産学科卒の同窓会。足掛け8年になります。今回は農工大の正門前に集合。あれから50年。いろいろ変わって当然ですが街の激変ぶりは懐かしさの感情をも混乱の渦に巻き込んでしまう程でした。しかし正門の櫟並木の前に立った瞬間、学生時代の光が降り注ぎ、吸う空気もあの時と同じ。「久しぶりだね。よく来たね」という声やし、櫟並木の偉大さが誇らしく思えました。初のクラスメイト再会時は「え～、うそ～」と時の経過を感じましたが、今では上書きされた年寄り集団にすっかり慣れ、仲間との一時を楽しんでいます。懇親会は府中駅方面で「来年どこにする？」「幹事お願いね！」と来年の約束で、お開きになりました。

S51年卒農業生産工学科クラス会

日 時 令和6年11月7日（木）
 開催場所 KKRポートビル横浜
 クラス（卒年） 農工S51
 参加人数 13名
 幹事・報告者 川田 明宏（農工S51）

<報告者コメント>

51年卒農業生産工学科クラス会は、これまで持ち回りにより毎年メンバーの居住都府県各地で開催していましたが、コロナ禍により中断の後3年ぶりに昨年沼津で再開し、今回は横浜での開催となり、山手の港の見える丘公園隣接の施設で13名が参加しました。来年は北海道での開催予定となりました。なお、今回出席の立和田さんが黄綬褒章を受章され、このお祝いも併せて盛り上がった会合になりました。

昭和55年卒業 東京農工大 農業生産工学科クラス会

日 時 令和6年11月7日(木)
 開催場所 兵庫県城崎温泉 西村屋ホテル招月庭
 クラス(卒年) 農工S55
 参加人数 20名
 報告者 岡本(埜村)幸紀男、衛藤 哲郎、
 小西 富士男(農工S55)

<報告者コメント>

昨年の山形かみのやま温泉に続き、今回は近畿地区の兵庫県城崎温泉にてクラス会を開催しました。

当日は、奥様同伴のメンバーも含め20名の参加となりました。

宴会は、今年亡くなった渡辺丈洋さんの奥様より差し入れされた静岡県島田市の銘酒「おんな泣かせ」での献杯で開始。

例年恒例となった鈴木氏の三味線演奏や各自の近況報告で盛り上がり2時間の予定を30分近く超過してしまいました。

その後、部屋に戻って2次会、各自が持ち寄った地元の銘酒に酔いしました。次回は四国での開催予定です。

製糸学科46年卒クラス会



日 時 令和6年11月9日(土)
 開催場所 エリプス
 クラス 製糸S46
 参加人数 15名
 幹事・報告者 三木 茂、花輪 正明・溝口 正伸

<報告者コメント>

エリプスにて開催、15名の参加、女性が4名で華やいだ雰囲気です。楽しんで過ごせました。当日は、農学部で農工祭が盛大に行われていました。工学部は、静寂な土曜日でしたが、エリプスだけが輝いていました。

能登半島の門前に実家がある山田氏から震災と豪雨被害の状況を報告書にまとめて頂き、説明を受けました。改めて被害の大きさ、特に住民の多くがメンタルの不調を訴えていることを知らされました。

クラス会としても彼に励ましのエールを送りました。

参加者全員の近況報告、三木氏のマジックショーの後、東小金井のインド料理屋で二次会をして来年も11月8日にエリプスで集合する約束をして、解散となりました。

工業化学科 S48年入学・S50年編入 クラス会



日 時 令和7年2月21日(金)
 開催場所 東天紅 上野本店
 クラス(卒年) 工化S52他
 参加人数 38名
 報告者 鈴木 義行、趙成洙、後藤(佐藤)礼子(工化S52)

<報告者コメント>

ほとんどの方々とはほぼ半世紀ぶりの再会でした。研究室や同好者の数人程度の集まりはあったようですが、クラス会は長らく開かれ

ていませんでした。胸の名札を見て「おっー」の声があちこちで。ときの流れをつくづく感じました。同期53名(うち物故者3名)中44名と連絡を取ることができ、38名の参加となりました。

在学中の思い出・卒業後のことなどのショートスピーチは1人目から5分近くになり、慌てて50秒のスマホタイマーをセットしました。その後の歓談でも話は尽きず、あっという間に3時間近く経ち、写真撮影、手締めの後、3年後の再会を約束して散会となりました。

工業化学科 (S54卒) の入学50周年記念同窓会



日 時 令和7年3月9日(日)
 開催場所 工学部140周年記念会館エリプス
 クラス 工化S50年入学・S52年編入等
 参加人数 18名
 幹事・報告者 林、安藤(高橋)

<報告者コメント>

入学50周年を機に工学部キャンパスに久しぶりに集合し、同窓会を行いました。古希前後の18名が参加した中、すでに鬼籍に入られた級友に哀悼の意を表した後、再会を祝いながら会を始めました。卒業以来、久しぶりの方もいましたが、仲間たちの近況報告を聞き、小川氏の講義や梶田さんのフルート演奏を楽しむ中で、参加者の気分はすっかり50年前にワープしていました。そして、4年後の卒業50周年に再会することを約束して閉会し、最後に様変わりした工業化学棟周辺を散策して解散しました。

(写真左上から林、岩田、高木、荒木、関谷(大島)、伊藤、大保、奥村、北岡、三橋、左中から萩原、橋本、左下から川村、小川、安藤(高橋)、梶田、野村(板屋)、宇恵(敬称略))

農学科 (S49卒) の卒業51周年記念クラス会



日 時 令和7年3月22日(土)
 開催場所 府中サングリア(イン・ヴィーノ・ヴェリータス)
 クラス(卒年) 農学S49
 参加人数 14名
 報告者 池谷 紀夫(農学S49)

<報告者コメント>

古希を迎える頃にクラス会開催を考えたが、コロナ禍となり開催が出来なかった。やっと収まってきたので、総勢14名の会(北は札幌、南は石垣島から参加)を開くことが出来た。

入学したのは、農工大学が学園紛争で封鎖された翌年だったので、まだ混乱の真ただ中での大学生活だった。それでも、今思うととても楽しい大学時代だった。

今回は女性が4人参加してくれて、当時の思い出話に花が咲き、とても和やかな会を開くことが出来た。参加者からは、感謝のメールをたくさんいただき、開催して良かったなと思った。

叙勲・褒章受章にあたり

令和6年の叙勲・褒章

叙勲受章にあたり

亀山 章（名誉教授）



令和6年秋の叙勲で瑞宝中綬章を拝受しました。この栄誉を賜りましたことは、ひとえに本学の教職員ならびに学生諸氏の皆様のおかげであり、心から感謝申し上げます。

叙勲は教育・研究に関する功績についてのものであることから、そのことについて述べさせていただきます。教育に関しては、1994年の学部の改組の当時、環境・資源学科の学科長であったことが大事な仕事でした。学部の改組は、教養課程である一般教育部の解体再編を伴うものであり、環境・資源学科の林学・農業生産工学・環境保護学の3分野と、一般教育部の人文社会科学系および体育系の教官が所属する学科をどうつくるかが焦点になりました。そこで、これらのすべてをまとめて多様化時代に適応した文理融合の大きな学科をつくることを構想しました。さまざまな基礎学を持つ多様な研究領域からなる学科をつくり、そこから地域に役立つ人材を社会に送り出そうとする地域生態システム学科を設立したのです。「地域」を付けた学科は、国立大学ではじめてのことであり、その後、他大学に波及したことは大きな成果であったと思います。学部の改組の経験は、全国の大学の新設や改組を審査する文部省の大学設置審議会の委員の仕事にも役立てることができました。

研究に関しては、造園学・環境緑化工学・自然保護学の分野において、植生学を主とした生態学

の応用的研究に取り組み、その成果をもとにして教科書の「造園学」、「緑地生態学」、「生態工学」、「環境緑化工学」を編纂し、技術書の「都市のエコロジカルネットワーク」、「エコロード」、「エコパーク」、「雑木林の植生管理」、「水辺のリハビリテーション」、「最先端の緑化技術」、「ミティゲーション」、「街路樹の緑化工」、「自然再生」などを刊行しました。

教育と研究の狭間で、学部の改組と同じころ、農学部キャンパスの整備に専門家として事務局の相談を受けておりました。昭和9年に竣工した農学部本館は、東京帝国大学営繕課の設計であり、外壁には当時流行したスクラッチタイルが使われています。建物の軒の部分の褐色タイルの交換と外壁のモルタル塗装の塗り替えをしました。整備が終わって、農学部本館は2000年9月に国の登録有形文化財（建造物）に指定されました。同時にケヤキ並木の整備と舗装道路両側の歩道の石張り、生協前と武道館前の広場の舗装などに助言し、歴史を物語る贈与大臣大久保利通公碑、授業の開始・終了を知らせた鐘などの解説板を設置しました。

農学部キャンパスの環境で忘れられないのはヒキガエルです。環境保全を標榜する本学において、キャンパス内にヒキガエルが生息していることは大きなアピールポイントです。事務棟と講義棟の間の丸池では、毎年春にヒキガエルが集団繁殖しています。ヒキガエルは例年、3月中旬で、気温が13℃以上になる雨の日の夕刻に一斉に冬眠から目覚めて、キャンパスのいたるところから丸池に向かいます。百数十匹にもなります。丸池は地面から20cmほどの高さの護岸で囲まれているために、ヒキガエルがこの壁を登れるように池の周囲に板で仮設のスロープをつくりました。また、自動車に轢かれないように、ヒキガエルの通行が多い図書館前の道路で注意と徐行を呼びかけておりました。

農工大には、このような様々な活動の機会を得させていただきました。ありがとうございました。

受章のご報告

氣多 正（農工S52）

令和6年秋の叙勲により、瑞宝小綬章を拝受させていただきました。身に余る栄誉を頂戴し、大変恐縮しているところです。

私は昭和48年、当時の農学部農業生産工学科、農業機械学専攻に入学いたしました。研究室としては、田原先生・藍先生・渡辺先生の部屋で学ばせていただき、昭和53年に農林水産省に職を得て40年近く勤め上げ、定年後は一般社団法人日本農業機械化協会というところで禄を食っており、いまだに現役を続けております。

ということで、農工大で学ばせていただいたことと直接が一生の仕事となり、役所にいるあいだも農業機械に関係する業務の担当であったことが一番多く、再就職後も既に約10年が経過、今後もしばくかの間は農機に関わることになりそうです。現在の職場でも、隣にはつい先日まで農工大におられた東城元教授が座っておられるほか、日頃お付き合いさせていただいている関係者の皆様も同窓の農機関係者が驚くほど多数であり、この分野での我が校の存在を改めて感じる次第です。

今回、このような栄誉に浴することが出来たのは、もちろん母校関係者以外でも、共に仕事をしてきた例えば農業機械業界の皆様や、様々な農業関係者の方々、職場の先輩・同僚などのお陰です。ただ、この受章をもって私の仕事が終わったということではなく、この場をお借りして現在取り組んでいることをご紹介します、併せて今後とも皆様のご協力・ご示唆などをお願いしたいと考えております。

というのは、農作業の安全に関する問題です。農作業事故の死者数は年間約250人であり、就業者あたりにすると全産業平均の10倍近くにもなります。この事故の約2/3は農業機械が原因となっており、また、死亡事故の裏には膨大な数の負傷事故があり、これらを何としても減らしたいとい



うのが現下の最大の課題です。対策のひとつとして、今まで農業機械にはあまり適用されてこなかった「労働安全衛生法」という法律を活用しようとの動きもあり、私もその検討や準備に参画させていただいています。

以上、取り留めもない文章となりましたが、再度、皆様方への感謝を申し上げ、受章のご報告とさせていただきます。大変、ありがとうございました。

褒章受章に際して

立和田 裕一（農工S51）

令和6年秋の褒章で黄綬褒章を拝受しました。私のようなものがこのような栄誉を頂けるとは夢にも思っていませんでした。

私は昭和51年に農学部生産工学科を卒業しました。当時は、第一次オイルショックの影響で就職難の時期でしたが、鹿島建設にお勤めされながら、我が大学で土質力学の講師をして頂いていた、大先輩である故鈴木音彦先生（農学部農業工学専修S32年卒）のご推薦もあり、鹿島建設グループのケミカルグラウト社に入社しましたが、恥ずかしながら「ケミカルグラウト」の意味を全く知りませんでした。

入社当時の日本は、不況下における景気対策の側面もあり、公共事業としてインフラ整備が積極的に進められていました。大都市での上下水道の整備や地下鉄の建設、山間部では治水のためのダ



ム建設などが行われておりましたが、日本の国土はどこを掘っても水が出るためその止水対策や、大雨による災害への対策が求められていました。地盤の止水や補強を可能にする技術であるケミカルグラウティング（薬液注入）が、こうした事業に欠かせない有用な技術で、それが社名の由来であることを入社後に理解しました。それ以来、このグラウト技術を活用することで日本のインフラ整備に半世紀近く携わってきました。

また大地震後の復興事業や事前の地震対策にも積極的に携わってまいりました。阪神淡路大震災（1995年）では、このグラウト技術を駆使して復興に役立つことができました。また、東日本大震災（2011年）では、福島第一原子力発電所の汚染水流失防止のための「凍土壁造成」工事に従事し、高濃度の放射線下での困難な状況の中、無事に完

成させることで日本ひいては世界の危機を脱する手助けができたと思っております。以後、日本各地の原子力発電所再稼働に向けて、防潮堤建設などの多くの地下工事にも参画しています。

直近では令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災した石川県七尾での工場施設の復旧にも、当社のグラウト技術が採用され早期復旧を実現いたしました。

これらの業務精励として黄綬褒章を受章できたのは、活動を支えて下さった皆様方のおかげでありここに深く感謝申し上げます。今後は恩返しの気持ちを込めて日本の地下工事の技術力向上と人材の育成に努めて参りたいと思います。

結びに、東京農工大学、同窓会、同窓生の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

退職にあたり

農学研究院教授 | 打出 毅



平成27年8月に農学研究院特任教授に着任し、令和2年に農学研究院教授に配置転換となり、現在に至るまで足掛け10年間、動物生命科学部門にお世話になりました。着任以来、獣医臨床分野での教育と研究に携わり、特に犬や猫の腫瘍性疾患や循環器疾患の早期診断・治療に関する研究を中心に、優秀な学生さん達と楽しく、時には真剣に議論しながら取り組んでいくことができたと思っております。また、動物医療センターでは、学部学生の皆さんに加え、獣医師免許を有する特任教員、大学院生、研修医の皆さんと夜遅くまで診療に携わったことは良い思い出となっています。令和3年には共同獣医学科長、令和4年には動物医療センター長を拝命いただきましたが、当時はコロナ禍の真最中でもあり、学生に対する感染対策に加え、病院スタッフに対する感染対策についても奔走した記憶がございます。どれをとっても懐かしい思い出です。農工大の関係者の皆様に感謝すると共に今後の更なる発展を祈念申し上げます。

平成27年8月に農学研究院特任教授に着任し、令和2年に農学研究院教授に配置転換となり、現在に至るまで足掛け10年間、動物生命科学部門にお世話になりました。着任以来、獣医臨床分野での教育と研究に携わり、特に犬や猫の腫瘍性疾患や循環器疾患の早期診断・治療に関する研究を中心に、優秀な学生さん達と楽しく、時には真剣に議論しながら取り組んでいくことができたと思っております。また、動物医療センターでは、学部学生の皆さんに加え、獣医師免許を有する特任教員、大学院生、研修医の皆さんと夜遅くまで診療に携わったことは良い思い出となっています。令和3年には共同獣医学科長、令和4年には動物医療センター長を拝命いただきましたが、当時はコロナ禍の真最中でもあり、学生に対する感染対策に加え、病院スタッフに対する感染対策についても奔走した記憶がございます。どれをとっても懐かしい思い出です。農工大の関係者の皆様に感謝すると共に今後の更なる発展を祈念申し上げます。

農学研究院教授 | 金勝 一樹（蚕糸S58）



府中キャンパスを初めて訪れたのは、18歳の受験生の時でした。入試前日の少し暗くなりかけた夕刻に来たせいなのか、正門から櫛並木を通してみた本館の時計台は、高校の「校舎」とは全く異なり、「荘厳」とさえ感じてしまいました。

それから学生として、また教員として30年以上もこのキャンパスで過ごしたことになります。農工大は、決して大きな大学ではなく、学生の気質に派手さも有りませんが、基本的に「真面目」な輩が多いように思います。農工大で出会った方々は、私にとって一生大切にしたい友人ばかりです。「定年退職」の辞令をいただいてから一週間ほどして府中キャンパスに来てみたところ、これまでさんざん見慣れていた風景が、何となくよそよそしく感じました。「これが本当に卒業するということなのだな？」と気づくのと同時に、これからは一人の同窓生として農工大の発展に少しでも貢献できればと思っております。永い間本当にお世話になりました。

農学研究院教授 | 渋谷 淳 (獣医S58)



1983年に本学の獣医学科卒業・修士課程修了後、東京医科歯科大学大学院進学、ポスドク、米国留学、国立研究所での勤務を経て、2007年4月に本学の出身研究室の准教授として着任し、それから18年にわたり教員生活を送りました。学科長のときに、岐阜大学の連合獣医学研究科の解消に伴う本学と岩手大学との共同大学院の新設に関わることとなり、設置後、専攻長を務めさせて頂きました。入学定員を10名として大学院をスタートしましたが、その後、毎年定員を超える多くの入学者を迎えることとなり、定員割れは杞憂に終わりました。研究面では、GIR、OPERAの課題責任者を務める機会に恵まれました。教員としては、学生ファーストで研究を進めて学生達と学術上の様々な知見を得て、彼らの多くの筆頭著者論文を公表し、更には博士学位の取得に導くことができました（主指導した学部学生29名と博士学位取得29名）。このように楽しく充実した教育と研究の場を与えて頂いた本学には感謝しかなく、今後、益々の発展を祈念致します。

農学研究院教授 | 千年 篤 (農学S58)



私は国立大学二期校の最後の学生として1978年に農工大農学部に入學しました。卒業後、民間企業へ就職、その後、アメリカへの留学、経済団体および私立大学政治経済学部での就業を経て、2006年に本学に着任（帰農）し、19年間、在籍しました。サッカー部に所属する傍ら、インターカレッジの移住研究会に出入りし、ブラジルへの移住を夢見ていた学生時代を振り返りますと、紆余曲折を経て40余年後に母校で定年退職を迎えられたことには感慨深いところがあります。全く予想外の展開でした。在学中は友人や先生、在職中は同僚や学生らに恵まれ、折々に強力な支援と協力を頂き、楽しく充実したキャンパスライフを過ごすことができました。関係者諸氏に心より御礼申し上げます。

口だけではなく労をいとわず自らの手・自らの足で稼げるのが農工大生の特徴であると私は常々、思ってきました。近年、首都圏出身者や女子の学生比率が高まり、学生気質も変化していますが、実直さ、好奇

心・関心を動機とする先取り精神、機動力は脈々と受け継がれていると感じます。この校風のもと、農工大が益々発展していくとともに、同窓生の皆様が益々活躍されることをお祈り申し上げます。

工学研究院教授 | 桑原 利彦 (生機S57)



平成元年に工学部機械システム工学科に奉職し、爾来36年間本学にお世話になりました。

私の専門分野は塑性力学です。塑性とは材料が永久変形する性質です。材料が塑性を有するがゆえに、例えば自動車のボディーなど、様々な工業製品を製造することができます。私の研究室では、材料の塑性変形特性を高精度に測定し定式化するための、世界初の高度材料試験機を開発することを研究テーマにしてきました。学生諸君の奮闘努力と他大学や企業との共同研究を通じて、国際標準試験法（ISO規格）を確立するなど、ある程度の社会貢献ができたと自負しております。

何一つ不自由なく、教育と研究に専念できましたのも、ひとえに、居心地のよい職場を与えて下さった本学教職員の皆様のおかげだと思っております。心より厚く御礼申し上げます。

4月以降は、シニアプロフェッサーとして塑性力学の講義を引き続き担当します。また大学に間借りしまして、産学官連携研究員として研究を継続します。末筆ながら、会員の皆様のますますのご健勝と御発展をお祈り致します。

工学研究院教授 | 夏 恒 (機シス博H7)



1995年3月に本学大学院工学研究科機械システム工学専攻博士後期課程を修了後、精密機器メーカーである黒田精工株式会社に入社し、7年間にわたり、生産加工技術や、形状測定装置および工作機械用機器の研究開発に従事しました。2002年4月には本学工学部機械システム工学科の助手、そして2005年4月に設立された大学院技術経営研究科（現・工学府産業技術専攻の前身）の助教授として着任しました。博士後期課程では放電加工の研究に取り組み、教員となってからは、産業界とも連携しながら電解加工、放電加工などの特殊加工に関する研

究活動を中心に、金型加工技術の高度化に尽力してまいりました。教育面においては、企業で培った実務経験を基に、専門職大学院における実践的教育に携わる機会にも恵まれました。在職中は、学生、教職員、ならびに企業関係者の皆様に支えられ、充実した日々を過ごすことができました。紙面をお借りして、関係者各位および東京農工大学に心より深く感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展を心より祈念いたします。

工学研究院教授 | 山下 善之



2007年4月に工学部化学システム工学科に教授として着任して以来、18年間にわたって小金井キャンパスで務めさせていただきました。その間、一貫して化学工学およびプロセスシステム工学に関する教育研究に携わってまいりました。学部学生の頃からずっと、コンピュータを活用して化学プラントをいかにうまく動かすかという研究を進めてきましたが、AIの発展もあり、近年、大きな注目を集めるようになりました。学協会等の幹事や役員を長年務め、経済産業省のスマート保安などにもかかわり充実した教育研究生活を送ることができました。

農工大在任中は、学内外で多忙な日々を過ごしながらも自由に活動させていただきました。これまでの経験を踏まえ、引き続き企業などへの技術指導を実施しておりますので、お役に立てそうなことがありましたら、ぜひお声がけください。東京農工大学に関係する皆さまのご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

工学研究院教授 | 養王田 正文



理化学研究所に勤務していた1995年ごろ、縁あって創設されたばかりの生命工学科で非常勤講師として講義を担当したことが、本学を知るきっかけとなりました。優秀な学生が多いという印象を持ったため、公募に応募し、1998年11月に工学部生命工学科の助教授として採用されました。期待通り、優秀な学生たちに恵まれ、充実した教育・研究生活を送ることができました。2003年から社会人ブラッシュアップコースを担当する教授となり、社会人学生を中心に多くの博士学生を指導し、主指導教員として45人に学位を授与することができました。また、職員テニス部に所属し、毎日コートに通うことで、健康的な生活を送ることができました。令和5年からJSTの共創の場形成支援プログラムにおいて、「カーボンネガティブの限界に挑戦する炭素耕作拠点」を主宰しているため、しばらくは本学の特任教授として、本学の発展に貢献させていただきます。



定年退職者のお知らせ

本学在職中に同窓会活動に多大なご協力をいただいた下記の先生方が、令和8年3月で定年を迎えられます。

有江 力 理事

伊豆田 猛 農学研究院 教授

田中あかね 農学研究院 教授

福原 敏行 農学研究院 教授

藤田 欣也 工学研究院 教授

本郷 智子 グローバル教育院 教授

(五十音順:氏名掲載はご本人の了解を得ている方のみです)

同窓生からの寄稿文

女子蚕糸業教育—学理に学ぶ

小此木 エツ子（教婦S24）

私共は、昭和57年12月に「製糸教婦史：絹の結び」を発行した。頁数が520頁に及ぶものだが、農工通信のご依頼の原稿を書くにあたり、改めて読み返す機会を得た。

明治36年に製糸教婦科（別科）を世に送り出してより実に120年余り、その間の製糸教婦の歩みはまさに日本の歴史の歩みの縮図を見るような思いであった。

明治・大正時代を生きた教婦、そして大正・昭和前期を経て、昭和後期に至る教婦の取り巻く環境は大きく変化していくが、教婦史では教婦が一人の人間として、女性として、そして社会人として、まさにひたむきに前途を見据えながらの生涯を生きた足跡が生々しくつづられている。

学校に於いては、次々と開発されていく繰糸機（座繰、各種多糸機・繰繭短繊維・自動機）等への対応と技術の修練、又、各種検査機器の修得と管理技術への学習等多くの課題をこなしてゆかなければならなかった。

そして何よりの大きな課題は、若い女子工員の教育であった。

当時の女子工員と学校出身の教婦との労働に対する意識の差があまりにも大きく、教婦を悩ましたもっとも大きなテーマの一つとされている。

この事で泣いて母校を訪れ、転職を希望した人もいたという。

従って、母校では、授業も一般教養等正規の授業の他に、寄宿舎でお茶、お花、礼儀作法を学ばせた。

これらはすべて女子工員の躰として必要であると云われて実行した。

こうして製糸教婦の日常は、朝早くから仕事に従事し、夜は女子工員の躰等に費やされていたようである。

私が、同窓会の製糸部会女子部長を永年やって、明治、大正、昭和に至る教婦に接して思うのは、西ヶ原の教婦には、他にない生き方に一本太い筋が通っていた事である。

各々が与えられた使命をとことんやり抜く底力があった事である。

これは一体何故なのかと考えると、やはり西ヶ原の教婦は、明治から昭和迄皇室と深い関わりがあった事から、全員が仕事に対し、又、生きることに対し、誇りと使命感を持っていたからではないかと考えている。



わがクラスの人々

池田 和彰（農学S39）

府中のキャンパスを去ってはや60余年、一人また一人…と友を送ってすでに6人が逝った。うすれゆく記憶をたどりながら、今のうちにクラスの友人たちの思い出や、当時のあれこれを述べておきたい。

何といっても最初に紹介するのは、太宰治も学んだ旧制弘前高校卒の柏崎さん。私たちよりも10数歳年上。さすが旧制高卒だけあって語学と数学がめっぽう強かったなあ。実家からいっさいの仕送りがなかった宮崎出身のM君。府中駅前の新聞販売店に住み込んで自活。午後2時半になると、いかなる授業があろうとも夕刊配達のため教室から去っていった。

このように、戦後間もなくから我々の年代ぐらいいでは、さまざまな出自、事情をかかえて入学してくる人たちがいて、おのずと私たちの視野を広げてくれた。たとえば、お前は農家の長男だから家を継げ、進学する必要はないと言われて、家出同然にして農工大にやってきた人。工場で2年働いて学費を貯め入学した人。話は変わるが、わがクラスにはなぜか女子が一人もいなかった。そこで、近くの小平にあったK女大の園芸科の女学生と合ハイ。奥多摩にハイキングに行ったり、農工祭に招いたりと楽しかったことを思い出す。

こうして過ごした1年次のわがクラスの指導教官は動物行動学の日高敏隆先生。農工大が初めての就職で、はりきっていた。まだ若く我々の兄貴のような先生で、毎回、自ら手書きのイラスト入りの資料を配っての授業はすばらしかった。分子生物学を初めて紹介した講義は皆興奮して聞いたものだ。日高先生はコンパにも合ハイにも付き合い、国会デモにも参加してくれた。

2年次になると、獣医科から1名、農芸科から2名、養蚕科から1名、蚕糸科から1名の計5名が農学科に転科してきて、クラスはますますにぎやかになった。まだクラス紹介の半分にもいかないところで決まりの紙数が尽きたようだ。この続きは、1年後まだ健在であつたら書いてみよう。

農工大まで遡った研究・教育人生

真木 太一（農学S41）

2022年6月に朝倉書店より『日本の風 人々の暮らしと関わる50の風』を編者として出版した。これに続き、2024年1月を記して思い立ち・執筆して2025年3月に『日本の局地風百科』を丸善出版より出版予定で

ある。一般書としてはフルカラーの大部の書籍である。これまでに単編著20余冊、共著30余冊を執筆したが、体力の衰えで最後の書籍になるか。

専門書と平行して、山にのめり込み『75歳・心臓身障者の日本百名山・百高山単独行』（海風社）、『日本百高山の完全単独踏破』（文芸社）を2019・2023年6月に出版した。

さて、肩書は九州大名教授のみになった。思い返せば、農工大を昭和41年に卒業後、九大大学院、農林省・農水省、愛媛・九州・琉球・筑波大、学術会議、国際農研、北大と渡り歩いた。そして南極・砂漠気象、地球環境・気象環境で風の研究一筋に行った。そして時間と労力を注ぎ込み、農業気象・沙漠学会賞、農学賞、読売農学賞、紫綬褒章、瑞宝中綬章を受章・受賞し、複数（日本農業気象学会・日本沙漠学会・日本農業工学会）の学会長を歴任して、運・不運もあったが概ね満足できる研究・教育人生であると思う。

人工降雨では、液体炭酸法（発明者：福田矩彦氏）を確立させ、三宅・御蔵・新島、北九州（福岡・佐賀・山口）、四国（愛媛（西条・新居浜等）、香川・徳島・高知）で、一雨10～200万トンを降らせた。各新聞に掲載されたが、近々毎日新聞に掲載されるであろう。さらに遡ると、冷害防止・防風林、沙漠緑化（草方格）・黄砂・口蹄疫の研究は書籍にもなる一方、南極の超安定気層状況下の気象特性では複数の論文になった。

話を戻すと、近年では日本学術会議会員として農学委員長等で多数の提言・報告を発出し、農水・国交・環境省に提示・解説したが、取り扱いがうまく流された感があった。また連携会員としては、幾つかの関連部門で意思の表出に協力した。

今後は関連学会、巨樹巨木林の会、同窓会等で楽しみたいと思う。



富士山頂・剣ヶ峰にて
(2019年8月10日)

クロノス（農耕の神）の導き

黒田 勝士（農化S46）

喜寿も近い年齢になりました。半世紀以上前、父が見つけてきてくれた農工大。

ギリシャ神話に出てくる天空の神（ウラノス）と大地の女神（ガイア）の子がクロノス。

この神が実は『農耕の神』であること、そして全知全能の最高神・ゼウスの父であることを最近知りました。

『ノウコウ』の縁か、卒業して54年…今、ここまでの凸凹の長い道を走馬灯を見るように思い出しています。

ある日、突然の父からの受験案内が振り出しです。



父は戦後から食品添加物の問屋商売で頑張ってきましたが、時代は添加物（食品の薬）活用の時代から食物そのもの＝食糧（無添加・無使用）への急激な移行期でした。

化学実験では食品添加物サッカリン（甘味料・砂糖の350倍。S40年代に禁止。原料トルエン）を合成もしたり、各地での柔道部合宿、夏季には（宗谷・根室）酪農家家族宅での（牧草の刈取・サイロ積・搾乳）屋根裏部屋住込、紅葉時、大学農場圃場での昼寝三昧の学生生活もあったという間の4年間でした。

その後、公務員（甲種上・次席合格）の道を選ばず、父の会社に入るもチクロ（当時一世を風靡していた甘味料・サイクラミン酸Na）も突然禁止に。苦戦続きの若い日々でした。一方、北米大陸単独回遊（長距離バス）もしました。

帰国後また、地方まわり行商（添加物）の旅が仕事でした（約15年）。その後二代目社長へ、今40年経過中。現在はベーカリー業界の専業（材料・具材・機械）問屋（現100億企業）に転進。関東・中京で拡大し、地域おこし町おこし・日本の食文化・業界の発展をミッションとし、社員（同志）へ繋げての次世代継承、楽しみにしています。

当社では、人道経営（人治経営）を先代より旗印にしております。経営者は、ある意味では教育者とも言われます。

時代を引っ張る都市文明（機械・科学・グローバル）と 永い時代と歴史を支える文化産業（心・命・生活・地域社会）とのはざままで生きてきました。そして現在はやっと食・文化の世界で落ち着きました。私にとっては長い時空間でした。

アウトドア派で、繰り返した長距離自転車行（関東一円・富士・）もいまは、膝・腰痛でほぼ休止中。柔道部 筆者（農・部長）、同期の溝口正伸画伯（工・部長）、宮本冷機二代目秀勝会長、後輩の皆さんとの年1の飲み会を楽しみにしています。

私の各駅停車の旅路、オリンポスの山並（クロノス）を見ながらも終着駅までもう少しです。

恵みに感謝、大自然、家族からの長き支援に感謝とともに、農工大・皆様にも感謝して末筆といたします。

自分史をまとめ始めました

吉原 豊彦（獣医S46）

昨年8月、喜寿を迎えました。この機会に何か思い出に残ることをしようと思いたち、自分史をしたため始めました。私自身がどの様な時代に生まれ、如何に過ごして来たのかとか、親戚や縁者などのことを嫁や子供あるいは孫たちは詳しく知りません。鬼籍に入れば全て消失してしまいます。そこで、残された者に対して何か参考になればと思い書き始めました。両親から第二次世界大戦や関東大震災の話、誕生から学生時代、就職してから職場でのこと、結婚や子供の誕生から就学、子供達の就職、結婚など様々なことが浮かび上がり、話はどんどん膨らみます。そうしたことを

整理したかったのです。

私は特殊法人日本中央競馬会（JRA）に1973年4月に獣医職として入会しました。JRAは昨年9月に創立70年という節目の年を迎えました。農工大の獣医出身者はこれまでも、そして現在もJRAで数多く活躍されており、全国の獣医系大学の中でも二十数名と最多です。私は2年間競走馬の臨床経験を経て1975年より競走馬総合研究所（JRA総研）に勤務しました。1997年2月にJRA総研の栃木県宇都宮市への移転に伴い10年間の単身赴任生活が始まりました。家族と離れた生活で不便なこともありましたが、自宅は世田谷ですので高速道路が発達しており、百数十キロの距離を自家用車で週末には帰ることができました。2007年にJRAを定年退職し、34年間のJRA生活に終止符を迎えました。その後、JRAの外郭団体である財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）に5年余り勤め、2012年に退職しました。当時の私のJRA総研での研究テーマは競走馬の病理学で、競走馬の多発する骨折の発症機序の解明と予防対策でした。骨折頭数は多い時には年間2,000頭余りあり、対策が必要でした。多方面からの研究の結果、骨折は運動負荷に伴い骨梁が太く密になり、結果的に骨硬化を引き起こし硬く脆い部分で骨折することが明らかとなりました。その対策として、四肢への負担を軽減することができる坂路調教およびスイミングプールでの運動を導入し、現在では問題が解決されました。これは一つの例ですが、この間に共著ですが6冊の専門書や論文を80編余り執筆していることもわかりました。自分自身の歩んできた足跡をこのように自分史としてまとめれば様々な面で必ず役立つことと思います。



子供や孫たちと伴に開催した喜寿と妻の古希の御祝い

一生を決めたアルバイト

宇野 文雄（製糸S46）

昭和44年（1969年）夏、とあるきっかけでコンピュータープログラミングのアルバイトに応募しました。会社主催の簡単な講習を受けて、フローチャート作成から始め、1か月後にはプログラミング作業へ。当時、国内のソフトウェア技術者数は2万人弱。現在は100万人を超えているので、黎明期にこの分野に入ったのはタイミングが良かったと思っています。卒論はミニコンHITAC-10を使った「製糸工場の自動制御の開発」を選択し、福島工場での会議や研究室に泊まり込んでの卒論作成に没頭。この時は、アルバイトでプログラミング、卒論でもプログラミング。毎日が楽しくて、寝る暇もな

く作業をしていた記憶があります。しかも、アルバイト料は今では考えられないくらいの高額でした。こんなに稼げるならコンピュータ技術者になろうと思い、就職活動はソフトウェア開発関係を受け、最終的に財閥系情報処理会社（当時はソフトウェア会社と言っていた）へ就職。研修終了後に運用開発部門に配属されると、月に120～160時間の残業が当たり前、今でいえば完全にブラック。しかし、仕事が面白くて、休日出勤でも徹夜作業でも何の苦も無く楽しく仕事をしていました。

入社6年目、親会社との確執が生じ、社内がゴタゴタしました。結局、社員55人が独立して新しい会社を設立。後に、我々の独立騒動がモデルとなる企業小説『ソフト技術者の反乱』（本所次郎・著）が出版されました。新会社は仕事にも恵まれ、設立後9年で株式上場することができ、上場と同時に事業部長、取締役を兼任することとなり、さらに忙しくなっていました。会社規模が1000人を超え中堅のIT企業になり、60歳で「技術者としても、経営者としてもやり切った」感で退任。

ありがたいことに。その後はいくつかのIT企業からの誘いを受け、フリーのITコンサルタントとして現在（2025年）も仕事を続けています。

あの時のアルバイトのおかげで、楽しく充実した人生を送ることができているのです。

ななじゅう会

原 啓志（林産S48）

11月の最後の土曜日の夕刻、三世代の東京農工大柔道部のOBが新宿の居酒屋の一室に集まって思い出話やそれぞれの近況の話に花を咲かせている。会の名称はいくつかの案から「ななじゅう会」が選ばれた。集まったOBが1970年代に農工大を卒業した代であること、年齢が70歳代であること、柔（じゅう）道部であることなどを背景にしている。この会は一人のOBの声掛けから始まり、5年経つ。

初めは、学園祭の開催に合わせ、後輩を励まして、その足で国分寺に流れたが、2、3年後からは、もっぱら飲みと語りで場所も現在の皆が集まりやすい新宿となった。尤も酒量はどんどん落ちて飲み放題の元は取れなくなった。開催日は初めの流れから、11月となった。東京近郊のOBが多い。現在は、1971年から1973年学部卒が中心で、そうなるとこのメンバーの一年生はいつまでも一年生である。それもまたちょうど半世紀を経ても尚、当時のキャプテンと構成にタイムスリップする要因であろう。

当時の一年生が、恒例の夏合宿の早朝ランニングで、沿道の方から夏ミカンを一抱え頂いたことや、地獄のような練習、打ち上げのコンパ、翌日のトイレ掃除など合宿に纏わる話は毎回出てくる。初心者には、私も含め特に辛く、日ごろの練習も一年間は大変だった。これも聞くと先輩や経験者、有段者にとってはそれ程ではなかったようで、随分とらえ方が違ったことを知った次第である。

昨年のななじゅう会では、先ずそれぞれの病気や怪

我が話があり、それから各人が抱える事業承継や投資、研究、コンサルの話題、次いで趣味の活動の話。絵画、モデルの子の写真撮影と広範囲及ぶ。三織維大戦や掛からなかった技や締め技で落ちたことなど部活動に纏わる話で締めくくられた。

柔道部は工学部と農学部と夫々あるもののほとんど合同で練習したり合宿したりしていた。農学部の道場は木造で古いつくりのままで、風格があった。老朽化が全体のクッションを良くしていたように思う。工学部の道場が新築されたあとしばらくたってから農学部の道場も新しく建て替えられた。

今回の投稿を機に新しいメンバーが加入することを期待している。以上



農工大ヨット部復活のプロジェクトX

五十嵐 由幸（応物S51）

農工大には58年の伝統を持つヨット部があります。全日本大会出場を目指しているスポーツクラブです。実は5年前に廃部の危機がありました。その危機に立ち向かった学生とOBOGのお話をさせていただきます。

2020年1月 最後の部員が退部、農工大ヨット部は危機に直面。廃部になれば、創部から多くのOBOGが森戸、芦名、長浜、江ノ島で苦楽を共にしてきたヨット部が農工大から消滅する。なんとしても、後輩達に、海に対峙しヨット競技を通して知、技、和、正、勇を学んでほしいと、復活プロジェクトを立ち上げた。12人のOBOGが参集した。

入学式後の6月、OBOGによる新入部員勧誘。上級生のいない部の勧誘に怪訝と迷惑の新入生。4名が入部。

毎週末ハーバーでOBOGが手とり足取り指導。ロープワーク・艀装・クルーワーク・帆走理論からヨットマンとしての海技、競技ルール、心構えを刷り込む。部員は2名に減少。

2021年 新入部員4名加わる。まだ部員だけでは帆走できない。夏に意を決し部員同士で帆走を練習させる。何とか帆走出来るように成るが、関東インカレ出場は覚束ない。

2022年 4名の新入部員迎え、総勢9名に。2月の厳冬から江ノ島沖で練習開始、他大と合同練習。

数年ぶりに関東インカレ出場、部員初めてのレース。3艇リタイヤせず予選を完走したが無残な成績。

2023年 復活プロジェクトリーダーが米国赴任。毎週末学生を指導していたリーダーが、4月以降は不在に。OBOG再度プロジェクトを再編。

部員は1月から江ノ島沖で猛練習開始。春の関東イン

カレ予選出場。強風下のチームレース、12校中7位、決勝進出を果たす。

農工大ヨット部は、関東強豪大（6大学：中大、日大、横国、東科大、横浜市）とレースで競えるヨット部に復活してきた。リーダー兼監督、コーチ、復活PJメンバーの指導、OBOG会からの物心両面の支援が実を結んだ。

2024年 学生は関東国公立大上位校入りを目指し猛練習を続け、2024年には、大きな成果を上げるまで成長した。

春・秋の関東インカレ大会決勝進出

1番艇予選個人総合1位

全日本学生女子ヨット選手権大会

30年ぶりの出場 強豪校33艇中20位

日本スナイプ選手権大会 1番艇創部初出場

部員ゼロの危機から5年、農工大ヨット部は復活へ。

学生は、農工大初の全日本インカレへの出場を目指して、練習を重ねている。同窓会の皆様、農工大学生は勉学だけでなく、スポーツでも頑張って青春を謳歌しています。

ヨット部OBOG副会長



森林・林業と深く関わって ～森林の造林・整備そして管理へ

杉山 嘉英（林学S52）

静岡県山間部に生まれ育ち、家業が林業を営んでいたため自然と進学先は「林学科」という流れが、自分も周りもできていた。在京の4年間は林学科の友との森林・林業関係の実習や講座、ワンダーフォーゲル部の仲間との信州・上越・東北・北海道の山歩きなど充実した日々を過ごした。残念ながら首都東京の文化・芸術・歴史の風に接することもなく、昭和52年春に静岡に帰郷し、自営の林業に就業し現在に至っている。

当時の林業は外材輸入の影響を受けるものの、国産材の需要も多く、それに比べられる人材や技術や組織がそれぞれの地域に残って経済活動が出来ていた。平成に入り、山村の高齢化や人口減少の流れや需要の減退などが進んだ。私も林業の機械化、協業化、森林情報のデジタル化などを進めてきたが、山村集落の暮らしの維持も課題となる中で、当地区に限らず個別林家や集落単位での持続的な林業経営は困難になってきた。

一方で、水源涵養や国土保全機能はもとより森林の多面的機能に対する期待は高まってきた。私が森林組合の経営に参画してから14年あまり、組合長に就任してから8年となる。その間、森林環境増与税の創設や2050年カーボンニュートラル宣言、ビジネスの世界での、自然環境を住民の生活や企業の経営基盤を支える重要な資本の一つとして捉える「自然資本」という考

え方の広がり、J-クレジット制度の推進など、森林・林業を取り巻く状況は大きく変わってきた。

当組合では、こうした流れを受けて、組合員の方々の所有や経営の課題は、組合組織の課題・広域の課題として捉えている。関係の行政機関の協力も得て、個々の所有森林をまとめて一定の広がりのある団地を設定し、森林の所有者の移動の把握、境界の明確化、管理計画の策定、管理主体の提案が出来ないかなどの調査検討を始めている。

山村の住民にとって「林業」はそこで暮らし続けるための手段であって、目的ではない。林業で暮らしていけないなら、その他の手段を考えざるをえない。当地域でも茶業や他産業への就業等で「山」離れが進んだ。日本の森林面積2,500万ha、そのうち持続的な管理が必要な人工林が1,000万haある。この人工林の多くが山村住民の日常的な暮らしと深い関係で、作られ守られてきた経緯がある。

それぞれの地域・流域が資源管理や国土保全の観点から、だれが組織的に守っていけるか、令和の森林管理が問われている。当森林組合もその一翼を担ってきたい。

(森林組合おおいがわ 代表理事組合長)

楽しく生きよう！

小林 貞夫 (植防S53)

大学時代は楽しかった。自活で忙しい中、今しかできないことをと、自転車では北海道を一周した。大学院受験が終わってから本格的に卒論に取り掛かり、先生方には本当にご心配をおかけした。

東京大学大学院に進学したが、今思えば実験の組み立て方、時間の使い方など全くなっていなかったが、なんとか修了できた。講師の先生が最新の研究をまとめてお話ししてくださったが、大変面白く、ありがたかった。

その後、理化学研究所の特別研究生、日本モンサントの生物科学研究所に勤務。殺菌剤創生のデータ整理中に、ここをこうしたら高活性で浸透移行性がアップするのではと、合成してもらったらその通りだったという幸運もあった。

モンサントが農薬事業を日産化学(株)に譲渡したので、解雇されたが、日産化学が拾ってくれた。営業の時は、毎日アップアップしたが、おかげ少しは人が何を考えているか観察ができるようになった。

このまま人生を終わらせたくないと58歳で思い切って退社し、JICAのシニアボランティアに応募。転職して短期間なので退職金も微々たるものだったが、かみさんに相談したら「わかりました。自分の好きなことをしてください。」と言われ、感謝。コロンビア農業・



畜産研究機構に派遣された。60歳で派遣先に就職し、Verduras y Frutas para Todos (みんなのための野菜と果物)を10年かけ出版し、FAOのサイトでも紹介された。当地の若い研究者の修士、博士の取得を手助けできたことはうれしかった。また、2025年5月に『今日誰かに話したくなる野菜・果物学』をエクスナレッジ社から出版した。

日本を出て14年、大変なことはあったが、目標を決め、愚直にやることで、たいていの夢は実現できると感じた。最後に農工大学の卒業生は能力のある人ばかりなので、さらなるご活躍を心より祈っています。

母校ゆかりのハスを育てる

中尾 俊二 (林学S53)

初夏の6月中旬から7月にかけて、和歌山県御坊市藤田町にある北吉田蓮の郷では、大賀蓮と舞妃蓮がそれぞれのハス池で優雅な花を一面に咲かせています。大賀蓮は紅色の鮮やかな花卉、舞妃蓮は淡い黄色地に薄い紅色の縁どりに気品があり、訪れる方々の眼を楽しませてくれます。

北吉田蓮の郷は、NPO法人「北吉田蓮の郷」が管理、運営する民間のハス公園です。2000年ハスとも呼ばれる大賀蓮と大賀蓮を親に持つ御坊市生まれの舞妃蓮を保存・管理すると共に、ハスを愛でもらい地域の文化醸成にも貢献できればと、平成27年に「北吉田蓮保存会」が発足、同年には池中央に東屋が建つ舞妃蓮池と五反田大賀蓮池が完成しました。同会は途中組織を強化しNPO法人「北吉田蓮の郷」に改組、私も県を定年退職後にスタッフとしてこのNPO法人活動のお手伝いしています。

大賀蓮はハス博士であった大賀一郎博士が、千葉県の東京大学検見川厚生農場(現東京大学検見川総合運動場)の地層から2000年の時を経て蘇らせた古代ハスです。その大賀蓮と上皇皇后陛下が皇太子同妃殿下時代に訪米した際に持ち帰られたアメリカ黄花ハスを、大賀博士の愛弟子で高校教諭であった阪本祐二氏が昭和41年に交配し翌々年開花したのが舞妃蓮です。舞妃蓮は日米双方の種を受け継ぐハスであり、また皇室にゆかりのハスでもあることから当時阪本氏により皇室に献上され、今もその子孫が皇居の池で大事に育てられています。

舞妃蓮が御坊市生まれというのは、作者で早くに故人となられた阪本氏が御坊市出身で、市内の自宅で舞妃蓮を作出したからです。ところで阪本氏が大賀博士と出会ったのは、実は母校の前身である東京農林専門学校でした。阪本氏が同校で学んでいた当時博士は講師として教鞭をとられていたのです。また、博士は終戦直前から府中市に移り住み府中市にも大変ゆかりのある方でした。その後も二人の師弟関係は続き、阪本氏は博士没後もその遺志を継ぎ教鞭の傍らハスの研究と育成・普及に情熱を注ぎこみました。

現在、阪本氏の生家の近くにある北吉田蓮の郷で、同郷で高校の恩師、大学の大先輩である阪本氏の残さ

れた舞妃蓮や大賀蓮のお世話をするようになったのは、何かの縁と感じています。これからも母校ゆかりのハスをとおして地域に少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思っています。



舞妃蓮池にて古典芸能の夕べを開催

岩手県支部今昔雑感

深澤 光 (林学S56)

本部を始め同窓会の皆様には、岩手県支部の事務局と連絡員の約20年間、支部長の6年間、大変お世話になりました。

支部の集まりに初めて参加したのは、今から40年程前のことです。それまで関連学科単位の集まりはありましたが、他の学科や学部の方とは全く面識がなかったので、50人近い参加者で校歌を唄った時に初めて、農工大だなと感じた記憶があります。

その後10年間位支部の集まりは有りませんでした。30代後半の頃林学科の先輩から、支部体制を作るので農学関係の同窓生と一緒に事務局を担って欲しい、との話があり、その数年後から「支部の集い」が開催されるようになりました。気楽な集まりにしたい、との当時の支部長の考えから、毎年開催されるわけでもなく、簡単な会計報告程度で総会もない、ほぼ懇親会だけのノンビリとした集いでした。15年程前に銀行から規約を求められたことをきっかけに決算を行い、毎年総会と合わせて交流会を開催するスタイルとなり現在に至ります。

課題は全国共通だと思いますが、支部総会を開催しても参加者が少ない、特に若手の参加が少ないこと。女性参加者が無い年もしばらく続きました。また、役員や事務局の担い手確保も課題です。気軽に酒飲みでもしましょう！などという誘いの言葉は、農工大卒業生でもはや通じない時代になっています。

支部役員を仰せつかる中で、次の三つのことに取り組みました。

一つ目は、支部役員を学部、学科を越えてお願いする、ということです。それまで事務局は長い間、農学部の一部の学科関係者で担って来ましたが、大学の学科再編も続き、従来の流れでは将来立ち行かない見通しになりました。また、工学部出身の方にも役員を担っていただくことで、工学部の同窓生の方々の支部活動への参加を増やすことが出来れば、と考えたからです。

二つ目は、楽しい支部活動です。実現出来たのは、同窓生が社長となられたクラフトビール会社の直営店での交流会の開催と同窓生の師匠を招いての落語会開催でしたが、女性参加者が増えるなど嬉しい効果が出ています。

三つ目は、近隣支部との交流です。まだ小規模の交流ですが、支部運営の悩みを共有し、今後の行事の共催など協力に向けて取り組んできました。

地方からの入学者が少なくなるなど大学としての課題もある中で、支部の最大の役割は、農工大って面白い！と感じる同窓生を増やすことだと思っています。今後も一会員として支部の活動に参加して参りますので、よろしくお願いいたします。

下天の内をくらぶれば (出羽三山山伏修行)

大嶋 博之 (植防S60)

植防S60年卒(櫟寮)の大嶋です。卒業しておよそ40年、県の農業技術系職員を退職後も続ける傍ら、数年羽黒山の山伏として修業をする身になりましたので、その概要をこの機会に御紹介します。

山伏というと、ビジュアル的イメージはともかく、僧侶や神主以上に馴染みのない存在だと思います。

羽黒山伏の本体は、羽黒山に鎮座する出羽三山神社と、その門前町である鶴岡市羽黒町手向地区の住民です。羽黒町手向は古くからの複雑な伝統行事を地域全体で守り実践している地域で、今も残る数々の宿坊が全国からの信者を受け入れ、信仰の拠点となっています。この地域の方々は別格の存在で、諸先達衆や知事といった役者はすべてここから選ばれます。

一方、私のように神社にも地域にも直接縁のない人間が山伏になるには、羽黒修験の重大行事「秋の峰」に参加して、山伏名をもらう方法があります。

この「秋の峰」という行は20年(20度位)を満願とする修行体系で、毎年8月26日から一週間、全国から集まる150人程度の山伏が山中の修行堂に泊まり込み、山駆けや苦行を行うというものです。風呂も乾燥機もない人里離れた体育館に男150人が雑魚寝するイメージですね。

修行の厳しさをいえば、もっとハードなものは世の中にまだまだあるような気がしますが、忙しい日々の暮らしの中から1週間切り取ってテレビもスマホもない社会とのつながりを完全に切ることからスタートするのは大変なハードルです。

修行の基本となるのは修行中に唯一許される「うけたもう」という返事のとおり、理屈なしで命じられた行を淡々と行うこと。一見理不尽に思えることも唯々「うけたもう」と応え実行するのは、あたかも櫟寮での先輩後輩の世界ですね。たった2~3年早く入学しただけのほとんど年の変わらない学生同士が、先輩後輩の絶対的ヒエラルキーでやりくりする学生寮の世界というのは、意外に日本の深い思想体系につながっているのかもしれない。

修行の過程でいくつかの節目があり、初度位で山伏

名を頂き、3度位で太七五三掛の着用許可、5度位で先達号（一人前）、10度位で長杖（立派な杖）等、目先の目標を目指しながら毎年修行を重ねます。その年々で行のメニューが変わるわけではないのですが、毎回新しい発見があり、修験の山の不思議を感じます。

当初、早逝した父の供養にせめて初度位をと思い始めた山伏行は、コロナ禍で行そのものが中止となり、3年程足踏みしたものの、現在5度位先達号を頂き、螺貝も入手して、修行はまだまだ終わりそうにありません。

40年ぶりの再結成ライブ

伴野 直明（林学S60）

私は、学生時代の4年間は軽音楽部に所属し、農学部3人工学部3人の6人編成のバンドを結成して国分寺や渋谷のライブハウスを中心に音楽活動に明け暮れていました。当時プロミュージシャンへの登竜門であったコンテスト「EAST WEST」の多摩地区予選会を兼ねた三鷹音楽祭でグランプリ受賞した時は、音楽で食ってくかと夢見たこともありましたが、現実は厳しく、昭和60年3月にメンバー6人揃って卒業（うち1人は中退?!）し社会に飛び立っていきました。

私は地元山梨に戻り就職しましたが、その後同じく地元に戻った軽音楽部のH先輩（蚕糸S60）を誘って、現在も趣味でバンド活動を続けております。

私は2023年3月に定年退職しましたが、学生当時のバンドメンバーでドラムを担当していたT君（植防S60）は難病を患い少し早めに退職し、現在も車椅子の生活ですが、頻繁に私のライブを山梨まで見に来てくれていました。そんな彼が昨年からは神奈川や東京在住の当時のメンバーに声をかけ4人で練習を始めた旨、ラインで報告がありました。報告とともに送られて来た写真を見る限り、練習よりその後の飲み会が主目的か？と思いましたが、思うにまかせない体でありながら再びドラムに向き合い、旧知の友と演奏ができるということは、とても喜ばしい知らせでありました。

そこで、年が明けて、もうひとつステップアップする試みとして、私の地元山梨のライブイベントに出演しないかと声をかけてみたところ、メンバーからは戸惑いながらも快い返事が返ってきました。さらに驚くことに遠くは鹿児島県在住メンバーまでもが駆けつけてくれることになりました。

かくして、2024年4月5日、40年ぶりの再結成、満員のライブハウスのステージに6人揃って立つことが



でき、とても楽しくメモリアルなライブとなりました。

還暦過ぎの第2の人生、若いときのように体も思うように動きませんが、これまで培った経験や人とのつながりを大切に、楽しく健やかに歩んでいきたいと思う今日この頃です。

薪ストーブのある暮らし

深澤 裕司（林学S62）

冬の朝は薪ストーブの熾に木片をくべることから始まります。関東平野の北端、足尾山地がはじまる山の端に転居して19年がたちました。

田園が広がる平野部に住んでいたのですが、徐々に森のそばで暮らしたいと思うようになりました。ある時、義母の故郷が条件に合っていることに気づいたのです。近くに自由に管理できる森林がある、山奥過ぎない、クルマ以外の交通手段が容易に利用できる、転職せずに済む。望めば叶うもので、紆余曲折を経て森のそばに引っ越すことができました。

家を建てるにあたり薪ストーブの導入とそれを活かした間取りにしてもらえるよう設計者でもある妻を説得し、いよいよ薪ストーブ・ライフへの一步を踏み出しました。

薪ストーブで暖をとり、炎や熾火の明滅を眺めながら飲む酒のうまさよ。この至福のひとつときがあるから重労働の「薪づくり」に耐えられるのかもしれません。

① 伐木造材（チェーンソー）→ ② 小運搬（人肩orネコ）→ ③ 運搬（軽トラ）→ ④ 玉切（チェーンソー）→ ⑤ 薪割り（斧or薪割機）→ ⑥ 運搬（ネコ）→ ⑦ 薪積み → ⑧ 乾燥

仕事では高性能林業機械の普及、伐出システムの高効率低コスト化などに携わりましたが、プライベートでは至ってローテク。体力勝負です。

薪づくりの主目的は熱源の確保ですが副次的な効果もありました。近所の人々に木を伐れることが知られたようで、人家脇や道路際の支障木伐採を頼まれるようになりました。「よそ者」の私がスムーズに地域に溶け込むことができたのです。

チェーンソーによる伐木の楽しみに目覚めました。一本として同じ木なし。思いどおりにコントロールして倒せたり、けん引具を駆使してかかり木を首尾よく外せた時は爽快です。支障木はいきなり根元から伐れない場合が多々あります。人家や電線、道路があって倒すスペースがないのです。その時は木に登って枝先から詰めてくる特殊伐採技術が必要になります。樹上での伐採は逃げ場がないのでより真剣に臨まなければなりません。

最近、近隣でもナラ枯れが蔓延してきました。ナラの大木が立ち枯れるのでとても厄介です。この現象は止められそうにありません。保全対象の近くの大木を安全に伐れるように技術を習得して地域に貢献するとともにちゃっかり薪を調達する魂胆です。

趣味

加藤 雅彦（獣医H7）

平成7年に農工大を卒業した。その年の4月からちょうど10年間、岡山県にお世話になった。それから3年間、岡山県内の私立大学に勤務した。その姉妹校が宮崎にあり、平成20年4月、そこに異動となった。その宮崎の大学に13年いたが、コロナ禍の最中、すなわち令和3年4月、縁あって岡山県内の公立大学に転職した。現在の職場である。私は再び岡山の人となった。生まれは静岡だが、私にとって岡山は第二の故郷である。

この公立大学にきた最初の2年間は、授業を全く持たなかった。つまり、暇だった。岡山県職員のとときから仕事に明け暮れていた私は、自宅にいるときや休日の過ごし方に戸惑いを覚えた。趣味でもあればそれをやればよいのだが、残念ながら、中学生の時から私には趣味らしいものがない。

そこで、最初の1年目は、ドイツ語とフランス語を勉強した。ドイツ語は、学生の時や大学院受験の時に勉強したので、何とか活用や単語を覚えることができたが、なかなか先に進まなかった。フランス語に至っては、発音もできなければまして満足に覚えることもかなわなかった。将来、ドイツ哲学とフランス文学の原書を読むために、と始めたことだが、早くも躓いた。

ドイツ語やフランス語に飽きた頃から、休日を使って、京都への日帰り旅行を始めた。これだけは、現在でも行っている。岡山は自家用車で日帰りができる距離にある。この地の利になぜ早く気が付かなかったのだろう、と今でも悔やむ。小学生の頃から京都が好きで、京都への職員旅行においては、観光案内を務めたくらいである。写真は、令和6年9月に訪れた世界遺産、仁和寺における重要文化財の一つ、二王門である。これは、17世紀前半に建てられた和様建築で、京都三大門の一つである。

ところで、ドイツ語とフランス語が駄目でも、母語の日本語であれば何とかなるかもしれない、と思うようになった。そんな安易な気持ちからか、今度は、日本文学の研究を始めた。自分の生涯にわたって好きだといえる作家、山川方夫の作品研究である。この紙面に書ききれないほど様々な趣味に挫折してきた今の私は、今度こそ、何らかの形にしたいとの淡い期待を抱いている。

オトナの都市農村交流のススメ
～宮城県丸森町での交流会報告～

滝沢 将史（生産H8）

皆さんお元気でしょうか？以前農工通信NO.98（2020.1）に新潟県柿崎での田植えイベントについて寄稿しましたが、その中で、学生時代に農ゼミ「耕地の会（当時の顧問は淵野雄二郎名誉教授、現顧問は大川泰一郎教授）」にて行ってきた都市農村交流について、オトナの都市農村交流を進めていきましょう！と提案させていただいたところです。

今回は、2024年5月4日（土）に宮城県丸森町耕野地区の皆さんとの交流会に行ってきました。丸森との交流は、千葉大OBの石塚武夫さんが新規就農で養蜂を始められ、農ゼミのつながりがあったこともあり、横田茂永さん（生産H7）や昼神洋一さん（生産H6）などとともに、遊びに行っていたことがきっかけです。当初は、近くの白石市に私の両親の田畑もあり、そこでの農作業合宿と組み合わせて行ってきましたが、2004年からは丸森町でも数少ない養蚕業の研修としても耕地の会の学生を受け入れていただくようになりました。これまで定期的に交流会を行ってきましたが、2019年の丸森での大水害や新型コロナ等の影響から、しばらく丸森の方々との交流会は休止となっていました。しかし、コロナも落ち着き、大水害からの復旧も進んだことから、今回久しぶりの大同窓BBQ交流会を開催することとなりました。

参加者はこれまでも丸森を訪れたOBOGである、三森裕くん（生産H13）、宅間淳くん（生産H14）、川満（高梨）清美さん（地生H18）、水川薫子さん（環資H18、現物質循環環境科学部門講師）、吉岡真澄さん（生産H18）、佐藤（菊間）浩子さん（地生H19）、小野淳一くん（環資H19）、桑田なつみさん（地生H20）、寺田智哉くん（地生H24）、丸山洋平くん（応生H28）が集まり、また農作業合宿で来ていた現役生（内藤佑将くん（地生2年（当時、以下同様））、塚本淳生くん（地生2年）、細野雅貴くん（生産2年）、安田有帆さん（獣医2年）、大日向郁真くん（応化2年））も参加しました。

BBQ交流会の前には、タケノコ掘りや養蜂の見学等を行い、交流会では、昔からお世話になっている耕野地区の方々との旧交を温め、また交流会の後は、ちびっ子達が田んぼで泥だらけになって遊ばしてもらいました。交流会の後は、地域振興の少しでも助けになればと、蜂蜜や加工品、干し柿等をお土産として購入しました。



また、翌日は、福島県職員の三森くんの案内で、福島浜通りの震災復興の足跡を視察し、大川教授が進める福島復興プロジェクトの富岡町実証農場での田植えにも顔を出すことが出来、有意義なGWとなりました。

と偉そうなことを書きつつ、私自身は前日に白石蔵王のキャンプ場で中学時代の同窓会があり、つつい飲み過ぎて、交流会の半分以上は二日酔いで潰れていました。学生時代と全く変わらない姿をお見せ出来て良かった(?)です。

農工大学卒業後を振り返って

富田 淳也 (国際院H16)

「田舎で農業がしたい。」そう思って実家を飛び出したのは2005年の春。温泉地で海釣りができて農業もしながら何とか生き延びられれば御の字だ。選んだ場所は鹿児島県日置市。恩師東京農工大学名誉教授塩屋先生が講演会でつながりのあった場所で、役場の方も親切に対応してくれただけでなく、耕運機付きの家と畑まで用意してくれたのだ。「飛び込んでから考えよう。」すぐに移住した。

関東地方の農業と圧倒的に違うのが気温の高さで、特に雑草の伸びるスピードが速く、気が付くとすぐに雑草に飲まれてしまう。雑草と闘いつつ色々なことをしていると、あっという間に19年の歳月が過ぎた。

大学院時代、東アフリカにあるマラウイ共和国の簡易焼畑、「チクーサ農法」を研究していた。打診があった後、及川洋征先生により、2024年4月号の現代農業で世界のびっくり農業として紹介された。20年前の自分の論文が現在紹介されていた。懐かしすぎて涙が出る思いだった。1999年から参加した青年海外協力隊での活動の中で見つけた、主食トウモロコシ等の乾燥した草を積み上げ、土ごと雑草を削いでその山を覆ってから、火をつける農法のレポートを「専門の研究者に見てもらいたい。」と、持ち込んだのが大学院進学へのきっかけだった。そんな私を受け入れてくれた東京農工大学には感謝しかない。

近年、カボチャが実を付けない程夏の暑さと陽射しが凄まじく、「畑を耕すと土の微生物全体が死んでしまうのではないか。」と感じる。このタイミングで紹介されたチクーサ農法。「効率化を求めた近代的な農法から、もう一度、熱帯の伝統農法を見直してみてもいいか?」そう問いかけられた気がしてならない。もう一度大学院で楽しんだ世界の伝統農法から野菜栽培のヒントを探してみようと思っている。



北の国から～同窓生へ送る凍える便り～

東海林 蓮 (地生R6)

令和6年3月に地域生態システム学科を卒業し、北海道で働き始めました。

1年前は東京の府中で学び、農の営みと人とのつながりに思いを巡らせていた私が、今は北海道の農業農村整備に携わっています。

農工大で学んだ、都市と農村、技術と自然、人と土地——それらを結びつけることが大切だということを、今、現場に立つ私は肌で感じています。水の流れを調べ、土を守り、作物が根づく風景を守り更新していく中で、農業という営みの尊さを知る毎日です。

縁もゆかりもなかったこの地に降り立ったのは、ほんの偶然でしたが、既にこの広大な大地に心を惹かれ、雪に閉ざされた冬ですら、そこに息づくものの美しさに目を奪われるようになりました。

冬の北海道は厳しいです。氷点下の風が肌を刺し、雪はすべての風景を覆い尽くします。しかし、そんな冬だからこそ見られる景色もあります。夜明け前、凍てついた大気の中で白く輝く霧氷、空を舞う粉雪の煌めき。どれも言葉にするのが惜しいほど、静かで、荘厳で、美しい景色です。

府中のキャンパスを巣立ち、思いがけず辿り着いた北の大地。農業農村整備に携わる日々の中で、私は今も学び続けています。昨年の秋、北海道支部の同窓生から声をかけていただき、道内の若手を中心とした交流会が開かれました。広大な北海道に散らばる同窓生がこうしてつながることに、改めて心強さを感じました。

さらに12月には支部総会にも参加し、総会後には「今後の支部活動の活性化」をテーマに、WEB参加者も交えた意見交換を行いました。北海道支部に限らず、多くの支部が抱える、参加者の高齢化という課題。どうすれば若手が参加しやすい場になるのか。同窓会を単なる思い出話の場ではなく、未来へつなげる組織にするために何ができるのか。議論は熱を帯び、実り多い時間となりました。

これからは、若手からも企画を提案し、学び合う場を設けるなど、新たな形を模索していきたいと思います。北海道の広い空の下、同じ学び舎で育った者同士が再びつながる——それは単なる偶然ではなく、きっと何かの縁なのだと思います。この縁を大切に、北の大地から同窓の輪を広げていけたらと願っています。



キャンパス便り

ハンググライダー部に入って得たもの

奥村 泰智（工学部応用化学科4年）

私は1年生の時にハンググライダー部に入部しました。入部したきっかけは大学生で新しいことを始めてみたく、構内の立て看板を見て体験会に参加したことがきっかけです。初めて飛び立つ山頂に連れて行ってもらい見た、雄大な自然の中を飛ぶハンググライダーはとてもカッコよく、またVR体験で世界の絶景の中を飛んでいる映像を見て、いつかきれいな景色の中を飛んでみたいと思いました。

ハンググライダー部では10月頃の初山飛びを目指して、週末や長期休みの合宿で練習するのですが、実際に山から飛ぶ技術が身に付くまでは飛ぶ時と降りる時の練習を海岸線の小さな丘で行います。1日中暑い海岸で、丘から飛んで降りまた丘の上に重い機体を運び、飛ぶことの繰り返しで、また毎回難しい姿勢を意識しながら練習するので体力的にとても大変でした。ただこのような苦労があつてこそ、初めて山から飛んだ時は言葉で表せないくらい感動したことを覚えています。

山から飛べるようになってからは、飛ぶのが楽しくて毎週末のようにホームエリアである茨城県の板敷山に飛びに行っていました。山から飛ぶときは練習とは違い、機体を運ぶなどの体力的に大変なことは減りました。ただその代わりに頭で考えることが増えました。ハンググライダーはしっかりと技術が身についていけばケガすることは全くありません。ただ空を飛ぶということは様々な目に見えない危険が潜んでいます。そのリスクを減らすために風の向きや自分の今飛んでいる位置と降りたい場所との距離感、一緒に飛んでいるほかの機体のことなどなど、あらゆることを自分自身で判断し考える必要があります。最初はインストラクターの方に無線機で指示していただきながら飛ぶのですが、徐々に自分で考えていかなければいけません。刻一刻と変わる自然の中、正しい選択を瞬時にすることはとても難しいことでしたが、すこしばかり自分で考えられるようになった時、ハンググライダー技術の向上のみならず、日常生活においても生かすことができ様々な面で成長を実感することができました。

これからの目標としてはPilot証という、日本全国で通用する一人前フライヤーの証をもらいたいと思っています。今はまだインストラクターが見ている中でしか飛ばませんが、いずれは日本全国の空や体験会でみた世界の空を自由自在に飛んでみたいと考えています。



アカペラサークルANIT

津村 蒼太郎（農学部地域生態システム学科3年）

私たちアカペラサークルANITは、主に学生生協や工学部室を拠点に、水・木・土曜に活動しています。主な課外活動は、新歓ライブ、工学部皐月祭でのライブ、年4回開催の身内向け定期ライブ、そして3年生の引退を兼ねた農工祭でのライブがあります。また、府中駅前で行われる「ふちゅあか」や、横浜赤レンガ倉庫前・お台場で開催される「50fes」などに、バンド単位で参加することもあります。ANITの特徴的な活動の一つに、夏休み期間を利用して開催する、サークル主催の外部向けライブ「サマライブ（以下、サマライ）」があります。

サマライの特徴は、3つあります。1つ目は「全体曲」の存在です。通常、アカペラはリードボーカル・コーラス・ベース・パーカッションの4パートを、4～7人ほどのバンドで担当します。しかしサマライでは、サークル員全体（30～40人規模）で1つの楽曲を演奏する「全体曲」があります。「それは合唱では？」と思われるかもしれませんが、合唱とは異なり、コーラスのみを大人数で分担します。さらに、リードボーカルが曲中で次々に交代する点も、全体曲ならではのポイントです。

2つ目は「ストーリー性」です。ANITの各バンドは、邦楽・洋楽・ディズニー・ジブリなど、テーマを持って活動していますが、サマライにも独自の“テーマ”や“ストーリー”が設定されます。たとえば、今年のテーマは『不思議の国のアリス』。「アリスがアカペラの世界に迷い込み、様々なバンドと出会ってその演奏を聞き回る」という構成で、ステージ上にアリス役が登場したり、映像で物語が展開されたりと、ライブ全体が一つのショーとして作り上げられました。そのストーリー設定や映像制作も、すべてサークル員による手作りです。

3つ目は「審査制の導入」です。サマライでは、実際にホールを借り、PAや照明も外注して行います。そのため、地域のお店やOBOGの皆様から協賛を募り、出演者からは出演費、観客からはチケット代をいただいています。こうした運営体制により、サマライには審査が設けられています。外部審査員をお招きし、出演バンドを選考するため、落選するバンドも存在します。出演を勝ち取るため、メンバーは演奏はもちろん、衣装やステージ演出にも力を入れ、より高いクオリティを目指しています。今年も、そして来年以降も、サマライは開催予定です。

この同窓会誌を読んでくださっている皆様の中で、少しでもアカペラやサマライに興味を持っていただけた方がいらっしゃいましたら、ぜひ会場へ足を運んでいただけると嬉しいです。



掲 示 板



府中キャンパスに「西東京国際イノベーション共創拠点（愛称:邂逅館）」が誕生！ 同窓会より家具を寄贈

長年にわたり教育・研究の発展に貢献してきた東京農工大学に、新たなイノベーション創出の拠点となる「西東京国際イノベーション共創拠点（「TUAT∞MUSASHI ENG, INNOVATION CENTER | 邂逅館」）」が、2025年4月、府中キャンパスにオープンしました。

この拠点は、大学の知恵と外部の活力を融合させ、国際的な視点を取り入れた新たな価値創造を目指すものです。本学の強みである研究力と、学外の企業や研究機関、そして起業家精神を持つ個人との連携を強化することで、地域社会や産業の発展に貢献することが期待されています。

「西東京国際イノベーション共創拠点」は、単なる研究施設ではありません。オフィス会員やパートナー会員を募集し、多様な主体が集い、交流し、新たな事業や研究が生まれる共創の場となることを目指しています。1階にはテナントも入居し、活気あふれる拠点となることでしょう。

さて、この度、同窓会では、昨年、大学が創基150周年を迎えたことを記念し、当該敷地の伐採木や本学演習林の樹木を材料として作製した調度品（テーブル、椅子など）を、この新たな拠点へ寄贈させていただきました。

同窓生の皆様におかれましても、この新たな拠点の活動にご注目いただき、府中キャンパスにお越しの際は、ぜひ足をお運びください。



慶 弔

慶 事

お祝い申し上げます

（敬称略）

令和7年春の叙勲

松永 是（同窓会名誉顧問・本学元学長）	瑞宝中綬章
中村 弘（農工S53）	旭日双光章

令和6年秋の叙勲・褒章

亀山 章（名誉教授）	瑞宝中綬章
氣多 正（農工S52）	瑞宝小綬章
立和田裕一（農工S51）	黄綬褒章

高齢者叙勲

鐘ヶ江利常（林学S34）	瑞宝双光章（令和7年2月1日付）
佐田 増藏（農工S34）	瑞宝双光章（令和6年10月1日付）

褒章

住谷 学（応生H31/農学院R3）	紺綬褒章（令和7年2月22日付）
-------------------	------------------

ご当選おめでとうございます（広島県三原市議会議員選挙2025）

田中 裕規（化工S57/化工院S59）	角廣 寛（環保S57）
---------------------	-------------

弔 事

ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます

名誉教授 森田 全三	林学/林学院 井上 一彦 (S61/S63)	化工 永山三千彦 (S62)
農学 宮下 徳男 (S29)	農工 齋藤 忠雄 (S30)	織化 伊藤 宣 (S29)
下 弘明 (S39)	小竿 真夫 (S34)	久保田穰一 (S29)
工藤 新一 (S46)	柴原 壽一 (S39)	中島 統一 (S36)
農乙 小嶋 忠 (S23)	織農 上野 欽三 (S23)	杉浦 猛雄 (S38)
養蚕 月田 嘉辰 (S26)	織別 中島 友雄 (S34)	工化 鈴木 東義 (S39)
松本 奎吾 (S44)	獣医 薄井 利夫 (S41)	伊東 巖 (S40)
養蚕/養蚕院 浦野 松幸 (S46/S48)	野呂令子 (逸見) (S50)	清水 克人 (S47)
養別 菊地 勝彦 (S39)	獣畜 並木 貞雄 (S22)	堀井 康司 (S50)
蚕別 引地 隆一 (S28)	井口 貞雄 (S23)	宮崎 正男 (S55)
蚕糸院 青木美穂子(高橋) (H8)	環・資 山田 泰司 (H9)	機械 木曾 三郎 (S40)
植防 田島 恵子 (S48)	製糸 田中 基三 (S31)	安田 格 (S40)
農化 佐野 吉彦 (S24)	杉村 治男 (S33)	機械/機械院 細井 賢三 (S45/S47)
中津 純 (S28)	製糸/電気院 木村 匡 (S38/S44)	機械/機械院 高山 正一 (S58/S60)
秋本 雄一 (S31)	製糸 若月 義和 (S38)	電気 長谷川和志 (S47)
澤野 勉 (S32)	池田 正己 (S50)	数情 新村 義人 (S55)
田中 治夫 (S34)	小梶 明廣 (S50)	(学科、卒年順)
鈴木 重之 (S39)	繊維 初川 修一 (S30)	
宮崎 康 (S44)	紡織 矢守 笙治 (S22)	
農化院 加藤英八郎 (S42)	宮坂 智文 (S26)	
林産 関 友昭 (S54)	織工 尾崎 稔 (S32)	
林産院/資・環博 定成 政憲 (S63/H3)	中村 好伸 (S33)	
環保 小川原 智 (S61)	濱野 幸雄 (S33)	
在原 俊行 (H1)	堂埜 宏 (S39)	
林学 黒岡 通昌 (S35)	佐藤昭久(角谷) (S41)	
青木 邦政 (S40)	鈴木 大介 (S41)	
河野 健治 (S42)	福光 久 (S41)	
林学/林学院 真下 孝之 (S43/S45)	大沢 栄 (S45)	
林学 齊藤 木市 (S55)	高濱 栄司 (S48)	

※令和6年8月以降にご連絡をいただき、ご家族から掲載の許可をいただいた方を掲載しております。

※本会報の題字は、長年ご尽力いただきました澤野勉氏(令和6年ご逝去)の作品を継続して使用させていただいております。

同窓会へのご寄附

白泰淑(農工S55)様(高額寄附)
農学部林学科昭和39年卒一同様
昭和39年林学・林産同期会様
他、匿名希望の皆様

同窓会へのご寄附をいただきありがとうございました。

東和ブルーベリー研究農園

<https://towa-blueberry.com/>

冷凍果実
ほぼ周年販売

新鮮果実・摘み取り園
7月から9月まで



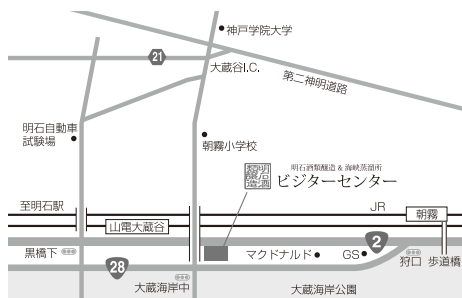
ブルーベリージャム 周年販売

農工大名譽教授の横山です。2019年に退職し、福島県二本松市の東和地区に移り住み、ブルーベリー園を開設しました。今年で7年目になります。ブルーベリーの発祥地である農工大の教授陣から学び、大きくて美味しい果実を生産していますので、ぜひお試しください。電話やメールでのお問い合わせもお待ちしております。（1980年3月に農学研究科を修了）
〒964-0202 福島県二本松市針道字町1番地 東和ブルーベリー研究農園
電話：0243-24-7781 メール：tadashiy@cc.tuat.ac.jp

オンライン：Yahooショップやポケットマルシェの東和ブルーベリー研究農園、二本松市ふるさと納税サイト、農工大つながるプロジェクト等
直売店：ベレッシュやアグリア（郡山市）、道の駅ふくしま東和、道の駅智恵子の里等

KAIKYŌ

DISTILLERY
海峡 蒸溜所



すべての人に酒と笑いと幸せを

明石酒類醸造 & 海峡蒸溜所

ビジターセンター

Akashi Sake Brewery & Kaikyo Distillery
VISITOR CENTER

□住所/673-0871 兵庫県明石市大蔵八幡町1-3 □電話/078-919-1087
□時間/11:00~17:30 □毎週火曜日・年末年始 ※詳しくはHPでご確認ください。

JR朝霧駅から西へ徒歩10分/山陽電車大蔵谷駅から東へ徒歩5分
駐車場2台（ビジターセンターの前）/4台（酒蔵の前）
URL <https://www.akashi-tai.com/jp>



米澤 仁 雄・農学科1984年卒



明石海峡大橋を望む海峡蒸溜所では
伝統を受け継いだ酒造りをはじめ
ウイスキー、ジンの蒸溜を行っています。
現在ではヨーロッパ、アメリカをはじめとする
世界35ヶ国の皆さまに喜ばれています。

見学ツアー・イベント随時募集（HPでご予約受付中）

JForest 森林組合おおいがわ

自然の価値を活かす森林づくりを進めます

技術者募集



 未経験OK

 教育制度充実

 装備品支給

人と交流することが好きなら

林業技術者

森林経営計画の作成
施業提案・現場管理

募集職種

業務内容

身体を動かすことが好きなら

林業技能者

造林・間伐などの森林整備
林業機械での木材生産



詳しくはWebサイトで

🔍 森林組合おおいがわ
で検索

問合せ・応募 受付 | 平日8:15~17:00

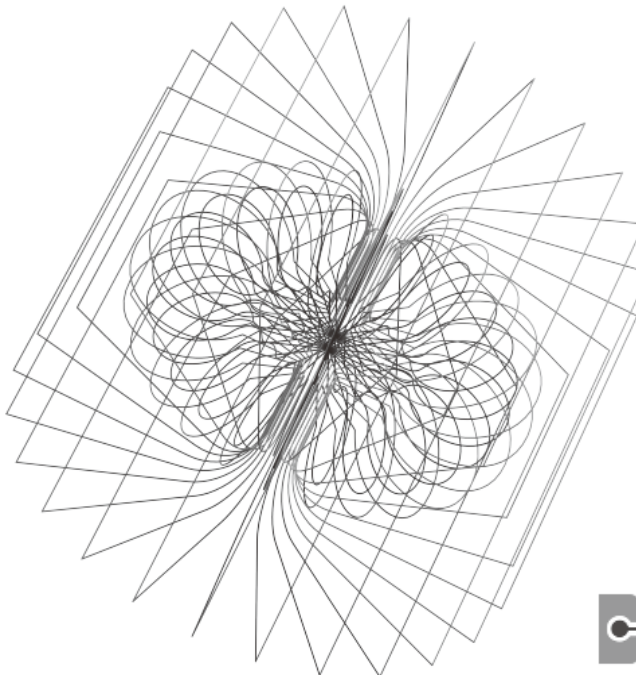
📞 **0547-30-2111**

✉️ soumu@ooigawa-jforest.jp

📍 静岡県島田市身成162番地

森林組合おおいがわ

代表理事組合長 杉山嘉英(S.52林学科卒)



果敢に、着実に。

Dejima Intelligence 株式会社は、
東京農工大学の 100% 子会社として、
2025 年 2 月に設立されました。



Dejima Intelligence
東京農工大学



**愛知ブランド
イノベーションアワード2024**
知事賞-最優秀賞-受賞いたしました

国産大豆利用拡大に向
おから入り大豆ミートの



日本の農業を応援したい！
未来の子どもたちにより良い社会を・・・

株式会社おとうふ工房いしかわ

〒444-1304 愛知県高浜市豊田町1丁目204-1
取締役 石川諒 (H26 生物生産学科/H28 共生持続社会学専攻)



細野 洋ラン園
Hosono Orchid

農工大卒業生の2人で
胡蝶蘭を育てています!!



Web



Insta



うまいビールで食卓をハッピーに!

BAEREN

岩手県民人気NO.1クラフトビール!

URL: iwat. beer



株式会社ベアレン醸造所

〒020-0061 岩手県盛岡市北山1丁目3-31

代表取締役社長 鳶田洋一
(1990年 蚕糸生物学科卒)

CATERING Service

出張料理

パーティ・御宴会は!!
サンブリアで!!

お集まりにふさわしい雰囲気演出致します。

IN VINO VERITAS
SANTGRIA

〒183-0027 府中市本町 1-1-7
TEL : 042-368-6368
H P : https://santgria.jp



事務局だより

1. 会費納入のお願い

同窓会は、皆さまからの会費により運営されています。
本会の維持および活動のため、会費納入にご協力をお願いいたします。

1. 終身会費 30,000円／70歳以上 10,000円

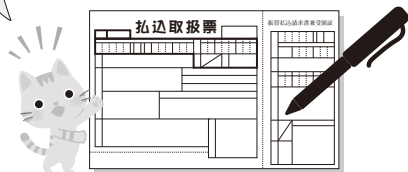
2. 年会費 1,500円

(※支払った日が属する年度〔4月～翌年3月〕分となります)

同封の払込票にて、上記いずれかの金額をお支払いください。
会費を納入された方は「正会員」となります。

- ・『農工通信』に払込票が同封されていない方は、すでに納入済です。
- ・年会費については、過去にさかのぼっての納入は不要です。
- ・本案内は7月下旬時点のデータに基づいておりますため、すでにご入金いただいている場合はご容赦ください。

払込票の発送は年1回です。
ご協力お願いします。



2. 現住所等、ご登録情報に変更はありませんか？

毎年『農工通信』のお届け先が住所不明のケースが多くあり、返送されております。現住所・お名前・勤務先などに変更があった際は、同窓会へのご連絡をお忘れなくお願いいたします。

同窓会ホームページの「会員情報の変更」より随時ご変更いただけます。また、同封の「変更連絡票はがき」でも受け付けております。



3. 在学生への就職支援 勤務先情報提供のお願い

同窓会では、在学生の就職活動支援の一環として、会員の勤務先および氏名を在学生に提供しています。情報提供をご希望されない場合は、同窓会ホームページの「会員情報の変更」等からその旨をお知らせください。ご連絡がない場合は、ご承諾いただいたものとして、就職情報を在学生に提供させていただきます。

※過去に情報提供の可否についてご連絡いただいております、変更がない場合は再度のご連絡は不要です。

4. 会員情報提供について

2010年5月をもって『同窓会会員名簿』の発行を廃止したことに伴い、現在は部会・支部・クラス会等からのご依頼により、従来の名簿に代わる情報提供サービスを行っております。

詳細は、同窓会ホームページ「入会・会員情報」内の「会員情報提供について」をご覧ください。

本会が保有する会員の個人情報につきましては、ご本人のご意向に沿って厳重に管理・運用し、個人情報の保護に万全を期しております。



5. 「農工通信」寄稿 随時募集！

『農工通信』では、みなさまからの寄稿を随時募集しています。内容は自由です（例：随想、近況報告、研究紹介など）。あわせて、写真・絵・イラストなども歓迎いたします。

①一般寄稿：800字程度（写真1枚）

2月末までに到着した原稿は、次号（9月発行）に掲載予定です。

②クラス会報告：300字程度（写真1枚）

同窓会ホームページ「クラス会だより」に掲載後、『農工通信』に掲載いたします。

③画像作品（写真・絵画など）：表紙や挿絵として使用。

※採用の際はご連絡いたします。

・送付先（メール）：tushin@tuat-dousoukai.jp.org
（同窓会事務局「農工通信」宛）

・郵送の場合：原稿や写真等の返却はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

編集後記

Editor's note

広報・情報部長 村上 尚（応化H12）

本号では、6月21日に開催された第7回定時総会報告の他、支部・部会活動、クラス会報告が多数掲載され、同窓会活動がコロナ禍以前の状態に完全に戻ったことを実感しました。私自身、運営委員として先日参加したある支部総会では、28名中11名が40代以下と多くの若い同窓生が参加しており、大変頼もしく嬉しく思いました。SNSなど、同窓生が繋がるツールも活用し、今後も支部や部会活動が若い世代を交え、さらに発展していくことを期待しています。

農工通信 第106号

発行日 令和7年（2025年）9月1日

発行所 一般社団法人 東京農工大学同窓会

連絡先 〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1

（一社）東京農工大学同窓会事務局

TEL 042 (364) 3328

FAX 042 (335) 3500

e-mail info@tuat-dousoukai.jp.org

URL https://tuat-dousoukai.org/

振替口座 00120-8-265877番

加入者名 一般社団法人 東京農工大学同窓会

印刷所 小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分県大分市松原町2丁目1番6号

本学では、農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター（FSセンター）で栽培した原料（米・芋・麦）をもとに製造した農工大ブランドの本格焼酎「賞典禄（しょうてんろく）」を販売しています。

[しょうてんろく]
賞典禄

農工大ブランド本格焼酎

お中元、お歳暮、贈り物に最適
部会、支部会、同窓会でも
ぜひ賞味下さい。

酒 類 販 売 管 理 者 標 識

販売場の名称及び所在地	東京農工大学農学部フィールドサイエンスセンター 東京都府中市幸町3-5-8
酒類販売管理者の氏名	本 林 隆
酒類販売管理研修受講年月日	令和5年8月22日
次回研修の受講期限	令和8年8月21日
研 修 実 施 団 体 名	一般社団法人 日本ボランティアチェーン協会



米焼酎



芋焼酎



麦焼酎



長期貯蔵酒（米）

賞典禄 FAX 注文票 以下のとおり注文します。

東京農工大学 FS センター 宛 FAX : 042-367-5801

【ご注文内容】

長期貯蔵酒 米焼酎 (2,000 円) 40 度 720ml	本	米焼酎 (1,600 円) 25 度 720ml	本
焼酎 米・芋・麦 3 種セット (4,500 円) 25 度 720ml×3	セット	芋焼酎 (1,600 円) 25 度 720ml	本
		麦焼酎 (1,600 円) 25 度 720ml	本
		合計注文金額	円

【ご注文者様情報】

お 名 前	フリガナ	
住 所	〒	
電 話 番 号	FAX 番号	
生 年 月 日	T.S.H 年 月 日	※年齢確認をさせていただく場合がございますのでご了承願います。

- 【ご注意】 ※1 お支払いは代金引換またはクレジットカードになります。詳しくは下記 URL をご覧下さい。
ただし、FAX でご注文された場合のお支払いは、代金引換のみとなりますので、ご注文者様以外への配送は致しかねます。
※2 ご注文いただいた上記金額の他に、送料 (5,000 円以上は無料) 及び代金引換手数料 (代金引換額に応じた所定の金額) が必要になりますので、予めご了承願います。
※3 本注文票により収集された個人情報、賞典禄の販売以外の目的には使用いたしません。

ネットショップ：農工大FSセンター夢市場

<https://noukoudai.com/> URL が新しくなりました。



問い合わせ先

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター事務局

TEL042-367-5811



電子メールアドレスご登録のお願い

同窓会では、会員の皆様への迅速な情報伝達のため、メールアドレスの登録をお願いしております。ご登録いただいたメールアドレスは、同窓会からのご連絡のほか、ご希望に応じて部会（卒業学科・専攻単位）、支部（ご登録住所の都道府県単位）からのご案内に限定して利用させていただきますので、ご安心ください。引き続き、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、部会・支部からのご案内送付の可否はご自身で選択いただけます。特に支部からのご案内は現住所に基づいて行われますので、最新のご住所をご登録くださいますようお願い申し上げます。



会員情報の変更はこちらより

同窓会ホームページ「入会・会員情報」より随時受付！

毎年お送りしている『農工通信』が、住所不明により多数返送されています。現住所やお名前、勤務先などに変更がありました際は、同窓会へのご連絡をお忘れなくお願いいたします。



この春大学を卒業・修了された皆様

ご卒業おめでとうございます！

学部を卒業されると（修士・博士課程から入学された方は修了されると）、自動的に同窓会の会員となります。これまで、保護者様が賛助会費をお納めくださっていたご家庭には、会報を保護者様宛にお送りしておりましたが、今号からは卒業生の皆様ご本人宛にお届けいたします。ご卒業後、お引越など住所が変わられた方は、同窓会ウェブサイトから会員情報の変更をお願いいたします。

在学生への支援について



同窓会は、会員の皆様からの同窓会費・賛助会費・ご寄付を基に、準会員である在学生の未来を多方面から支援しています。就職支援では、キャリア・アドバイザー派遣や合同企業説明会への協力を実施。学術活動では、学会発表・入賞祝いや論文誌発表援助、優秀卒業論文への副賞贈呈を通じて、学生の挑戦と成果を奨励します。学園祭や課外活動への援助、卒業証書カバーの贈呈も、学生生活を豊かにする活動の一環です。創基150周年を記念した学習・生活環境向上のための資金援助も、会員の皆様の温かいご支援によるものです。同窓会は、皆様の会費を大切に活用し、在学生に対しても成長と活躍を力強く後押しします。

